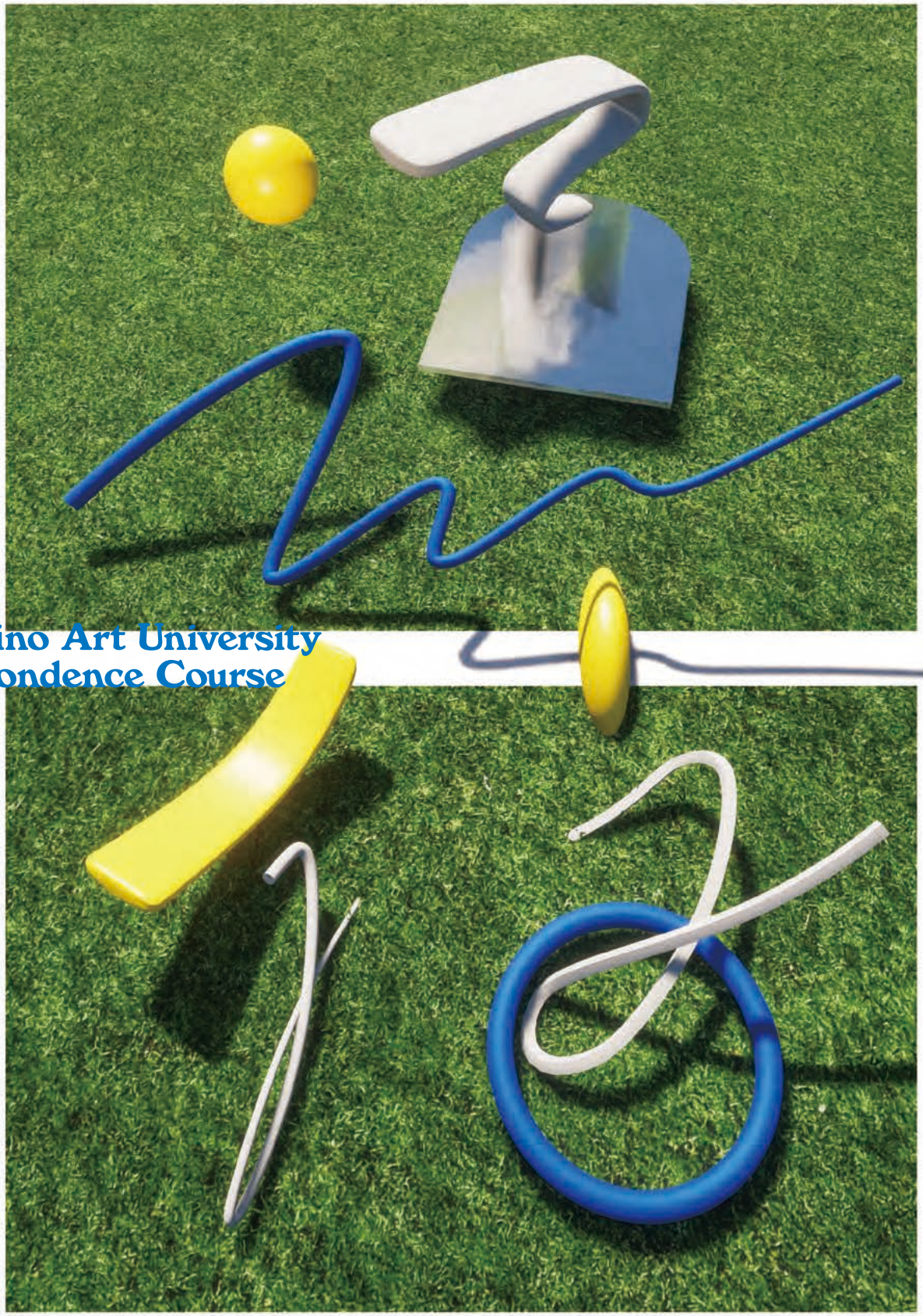
武蔵野美術大学

造形学部 通信教育課程 入学案内2024



Musashino Art University Correspondence Course



武蔵野美術大学　**造形学部通信教育課程**

Musashino Art University
Correspondence Course

つくる力が私を変える

——— 武蔵美（ムサビ）の通信教育

創作活動をもっと充実させたい。
芸術文化に触れ、学ぶことで生活を豊かにしたい。
プロとしてのキャリアアップを目指したい——。
武蔵野美術大学の通信教育課程は、
あらゆる人に開かれた造形芸術の総合的な大学です。
ムサビの伝統と独自のカリキュラムによって培われる“つくる力”。
一日一日を、そして人生を変える大きな力です。



Contents

ムサビ通信の特徴 2

ムサビ通信への入学案内 7
- 教育課程 8
- 入学制度 10
- 授業科目 12
- 授業形態 14
- 年間スケジュール 16

ムサビ通信で学ぶQ&A 18

在校生の声 VOICE 1 20

学科・コース紹介 21
- コース紹介 22
- ［油絵学科］絵画表現コース 23
- ［油絵学科］日本画表現コース 29
- ［デザイン情報学科］デザイン総合コース 35
- ［芸術文化学科］芸術研究コース 41

在校生の声 VOICE 2 48

卒業制作 作品集 49

科目紹介・学習の流れ 57
- 文化総合科目 58
- 造形総合科目 60
- 学習の流れ① 通信授業の科目例「日本美術史」 62
- 学習の流れ② 面接授業の科目例「絵画表現基礎 I B」 64
- 学習の流れ③ 面接授業の科目例「デザイン基礎 I B」 66
- 学習の流れ④ メディア授業の科目例「カメラリテラシー」 68

在校生の声 VOICE 3 70

教職課程 72

学芸員課程 73

教員インタビュー 75

卒業生インタビュー 81

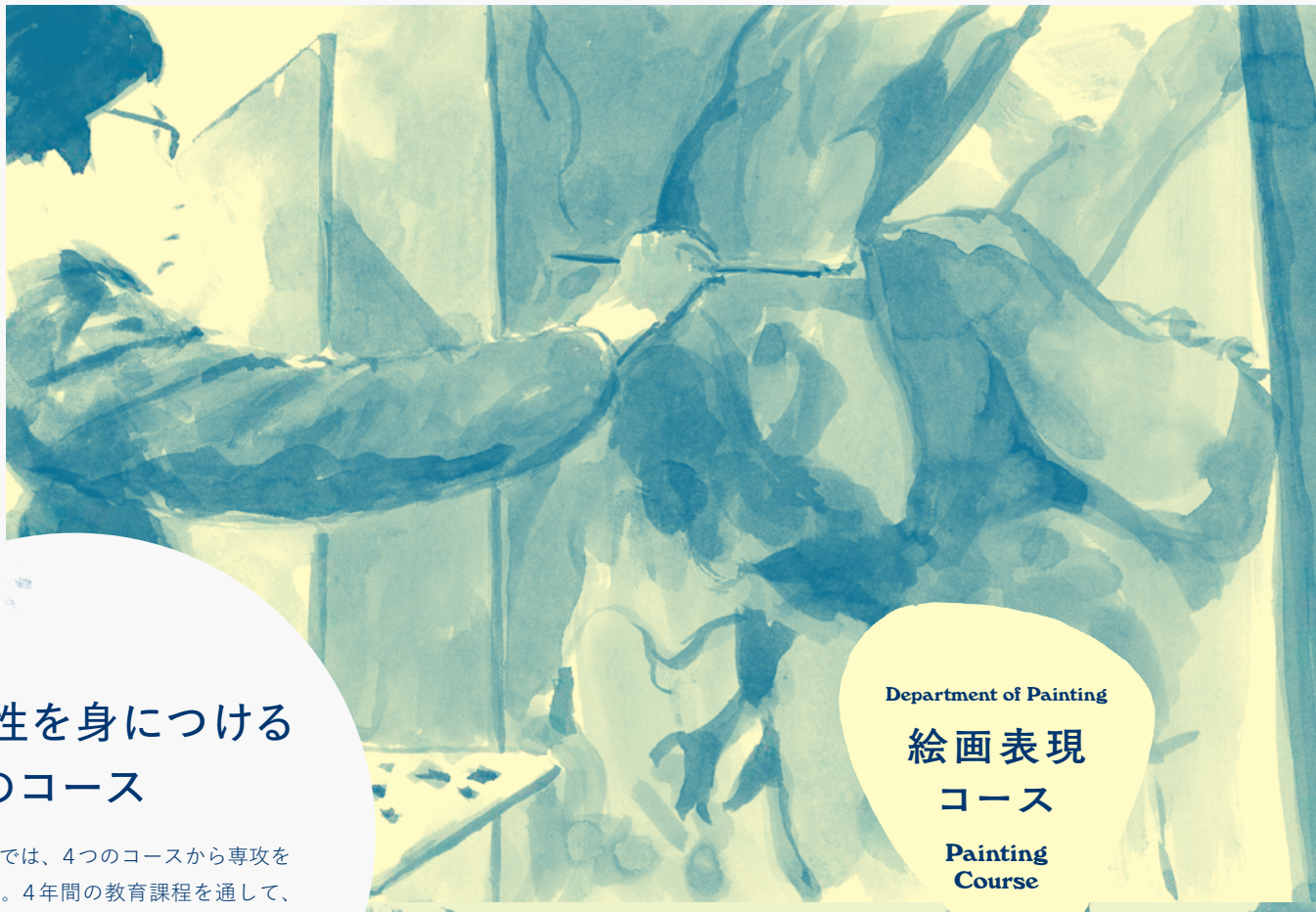
学生生活・インフォメーション 85
- 学生生活／学生支援体制 86
- 教育環境 88
- 教員紹介 90
- 交通案内 92

ムサビ通信の特徴

1

専門性を身につける4つのコース

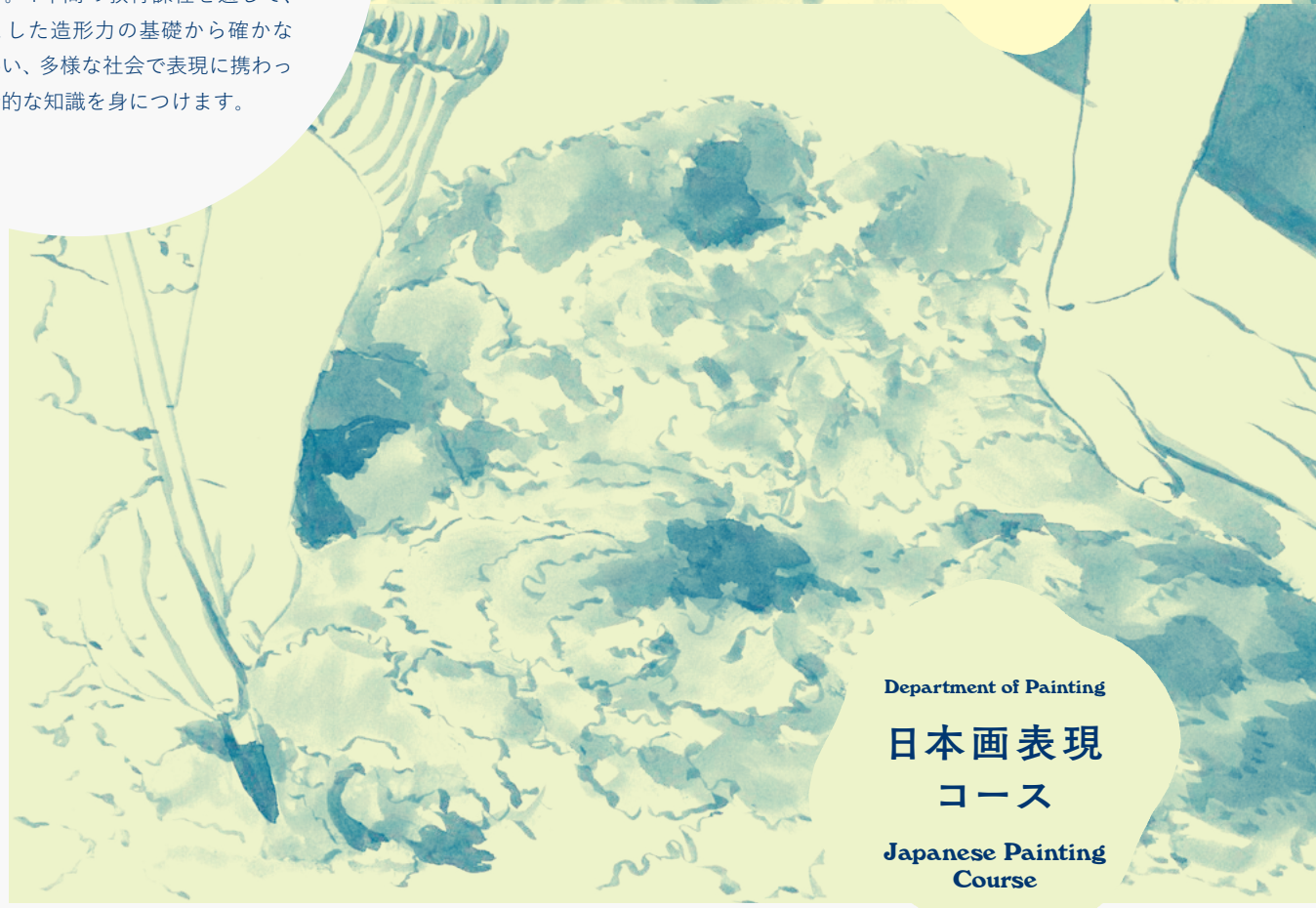
ムサビ通信では、4つのコースから専攻を選択します。4年間の教育課程を通して、しっかりとした造形力の基礎から確かな専門性を養い、多様な社会で表現に携わっていく横断的な知識を身につけます。



Department of Painting

絵画表現コース

Painting Course



Department of Painting

日本画表現コース

Japanese Painting Course



Department of Design Informatics

デザイン総合コース

Synthetic Design Course



Department of Arts Policy and Management

芸術研究コース

Art Study Course

学習指導書には課題の内容や提出方法、参考資料などが分かりやすくまとめられています。通信授業では、学習指導書の課題に一つずつ取り組んでいくことで、造形の知識や技術が着実に身についていきます。

ムサビ通信の特徴

2

実践に基づいた独自の通信教材

通信授業は、本学教員を中心に第一線の美術家や研究者が執筆した教科書と、ムサビ通信が独自に制作した学習指導書によって進められます。自分のペースで課題に一つずつ取り組み、きめ細かな添削指導を受けることで、着実に実力を身につけることができます。

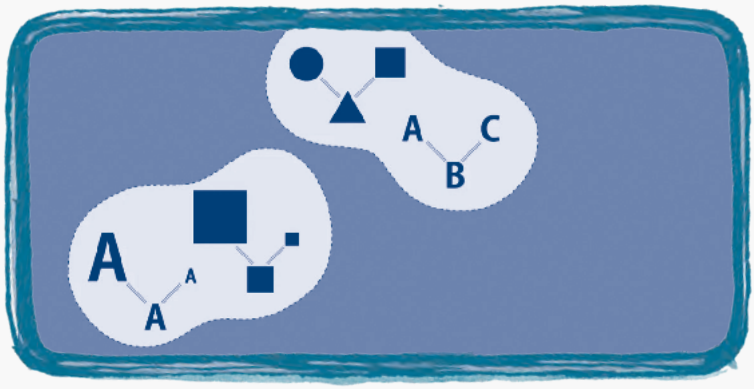


ムサビ通信の特徴

3

オンラインを活用した学習の強化

ムサビ通信ではオンラインの活用を強化しています。面接授業（スクーリング）と同じように、密接な双方向のコミュニケーションをWeb上で実現するメディア授業。パソコンでアクセスし、スクーリングの予習復習に役立てるオンラインプラスなど、遠隔でもより豊かに学べる環境を整えています。











ムサビ通信の特徴

4

美術大学ならではの充実した設備

ムサビ通信では、自宅での学習のほかにキャンパスでの面接授業（スクーリング）を行います。鷹の台キャンパス、三鷹ルーム、市ヶ谷キャンパスを使用します。鷹の台キャンパスには、専門的な設備を備えた工房のほか、美術館・図書館も併設されており、充実した学習を行うことができます。

ムサビ通信への入学案内

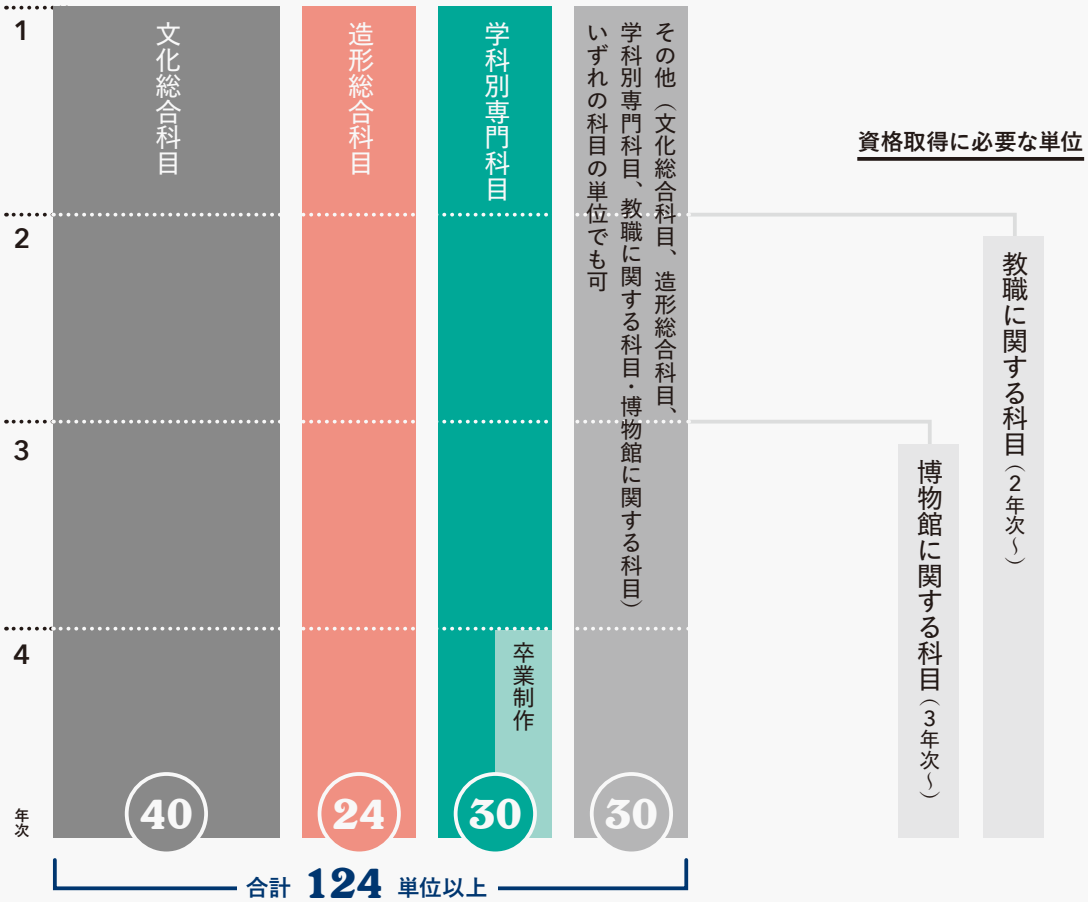
Musashino Art University
Correspondence Course

1 教　育　課　程

造形力の基礎を育て、
専門性を身につける。
入学から卒業までのカリキュラム。

ムサビ通信のカリキュラムは、「文化総合科目」「造形総合科目」「学科別専門科目」からなり、それぞれ必要な単位を修得することで卒業、学士（造形）の学位を取得することができます。単位とは、履修した科目を十分に学習したと認められる場合に与えられるもので、年次ごとに計画的に履修することが重要です。1～2年次には積極的に基礎固めができる科目を学び、3～4年次に専門性を身につける科目を履修することで、効率的に学習を深めていくことができます。

卒業に必要な単位



卒業には、124単位以上（面接授業またはメディア授業の30単位を含む）の修得が必要です。内訳は文化総合科目40単位、造形総合科目24単位、学科別専門科目30単位、その他、左記の3つの科目群および教職・博物館に関する科目から30単位以上です。なお、卒業に必要な単位には、学科･コースごとの必修科目（卒業制作含む）、選択必修科目が含まれていなければなりません。

文化総合科目で、幅広い学問分野と造形の理論を学ぶ。

さまざまな学問分野と造形をつなぐ授業科目群です。ムサビ通信で学ぶ美術やデザイン、芸術研究といった専門分野は、社会や他の学問との関わりのなかで成り立っていくものです。
文化総合科目では、美術史や造形理論に関わる科目から、人文科学、社会科学、自然科学など諸学問分野の基礎的、応用的な授業科目、さらに外国語、健康やスポーツ等に関する科目も開設され、多彩な科目から各自の関心に合わせて選択し、受講することができます。

造形総合科目で、造形の基礎や総合力を身につける。

あらゆる造形分野に共通する、基本的・総合的な能力を習得するための授業が網羅されている科目群です。
デッサンや絵画、工芸、デザインなどの造形力を身につける科目のほか、コンピュータを用いた造形やマルチメディア関連など、今日的な情報環境に関する科目も多数開講されます。
選択科目なので自由に選択し、受講することができます。

学科別専門科目で、自身の表現や関心を深め、専門性を高める。

専門分野をより深く、横断的に学ぶため、4つのコースそれぞれに開設される授業科目群です。
どのコースでも年次ごとに「必修科目」や「選択必修科目」が設定されており、年次が上がるほど専門性も高まっていきます。卒業を前に全員が取り組む「卒業制作」もこれに含まれます。
編入学の場合、すぐに専門性の高い科目に取り組むことができますが、造形的な知識に不安がある場合は造形総合科目で基礎を固めてから専門科目に取り組むこともできます。

資格取得に関わる科目

教職に関する科目

油絵学科、芸術文化学科で教員を目指す学生が、「美術」「工芸」の教員免許状を取得するための科目です。2年次以降に教職課程への登録手続きを行い、履修します。詳しくは72ページをご覧ください。

博物館に関する科目

博物館・美術館の学芸員資格を取得するための科目です。3年次以降に学芸員課程への登録手続きを行い、履修します。詳しくは73ページをご覧ください。

2 入　学　制　度

1年次入学、
2年次・3年次編入学、
科目等履修生―。
あなたに合った入学と学び方。

ムサビ通信には入学のための選抜試験はありません。必要書類を提出し、選考に合格すれば入学することができます。また、高等学校卒業者を対象にした1年次入学はもとより、大学・短大等を卒業した方は、2年次や3年次への編入学も可能です。その場合、大幅な既修得単位の認定が受けられます。このほかにも、科目等履修生など、さまざまな入学の仕方、学び方があり、大学入学資格のない方であっても、特修生として必要な科目を履修したのち、ムサビ通信への入学が認められる道が開かれています。

1年次入学

高卒以上の全ての方に門戸を開放

高等学校卒業以上の学歴をもつ全ての方が対象で、造形を学ぶ意欲のある方であれば、出願書類による入学選考により入学することができます。基礎的な造形力や理論から専門分野の能力まで、じっくり時間をかけて身につけます。

編入学

大学・短大・専修学校の卒業者などを対象

大学・短大の卒業者のほか、専修学校を卒業した方や外国で教育を受けた方など、所定の条件を満たしていれば、2年次または3年次からの編入学が認められます。修得した単位として認定されるのは、2年次編入の場合は46単位、3年次編入の場合は62単位が上限となります。編入学される方で、美術系の学校を卒業されていない方や、これから造形に取り組まれる方は、造形の基礎を身につける期間を設けることをお勧めします。

科目等履修生［一般］

特定の科目だけを履修したいという方を対象にした制度です。18歳以上の社会人、他大学の学生などが無理のない範囲で造形教育を受けることができます。入学前に本学を体験する「Pre-Study Program（PSP）」という位置づけもあります。

科目等履修生［教職生］

現職の教員を対象としたもので、所定の単位を修得することにより、他の教科の免許状をもつ現職教員が「美術」「工芸」の免許状を取得することができます。

科目等履修生［特修生］

大学入学資格のない方を対象にした制度で、必要な単位を修得することによってムサビ通信への入学が認められます。

通学課程への転籍

本学編入学選抜試験に合格することにより、本学の通学課程への転籍が可能となります。


1
2

3 授業科目

通…通信授業 ／ 面…面接授業 ／ メ…メディア授業
★は科目試験を実施する授業科目

充実した授業科目から、高い専門性と幅広い教養を総合的に身につける。

授業科目は、広範な理論を学ぶ「文化総合科目」、造形各分野の基本を網羅した「造形総合科目」、学科・コースごとに専門性を深める「学科別専門科目」で構成され、さまざまな科目が用意されています。ムサビ通信では高度な専門性だけでなく、幅広い教養を身につけ、総合的に学習できる環境を重視しています。コースごとに定められた必修科目や選択必修科目以外は、それぞれの興味関心や必要とする知識に応じて授業科目を選び、自分だけの学習計画を立てていきましょう。

文化総合科目

単位数 通	単位数 面	単位数 メ	授業科目名
		1	レポート入門 I
	1		レポート入門 II
	1		コンピュータリテラシー I
2			コンピュータリテラシー II
		1	カメラリテラシー
		1	美術入門
		1	デザイン入門
2			文学 ★
2			歴史学 ★
2			哲学 ★
2			社会学 ★
2			経済学 ★
2			憲法 ★
2			民俗学
2			心理学 ★
4			色彩学
2			著作権法 ★
4			音楽論 ★
2			数学 ★
2			生物学 ★
2			物理学 ★
2			自然科学概論 ★

単位数 通	単位数 面	単位数 メ	授業科目名
2			英語 I ★
2			英語 II ★
2			フランス語初級 ★
2			フランス語中級 ★
2			フランス語上級 ★
	1		健康と身体運動文化 I
	1		健康と身体運動文化 II
	1		健康と身体運動文化 III
	1		健康と身体運動文化 IV
1			健康と体力研究
1			身体運動文化研究
2			美術の歴史と鑑賞 ★
2			日本美術史 ★
2			東洋美術史 ★
2			西洋美術史 I ★
2			西洋美術史 II ★
4			建築史 ★
2			デザイン史 ★
2			演劇史 ★
2			民芸論 ★
2			美術論 ★
2			現代芸術論 ★

単位数 通	単位数 面	単位数 メ	授業科目名
2			工芸論 ★
4			映像文化論 ★
4			デザインマネージメント
4			アートマネージメント
		1	情報社会倫理論
		1	情報職業論
4			演劇空間論 ★
4			工業技術概論
2			絵画空間論 ★
2			美術解剖学 ★
2			日本画材料学 ★
1	1		ワークショップ研究 I
1	1		ワークショップ研究 II
	1		絵画表現材料
		1	絵画表現材料研究
		1	日本画表現入門
1			デザイン論 I
		1	デザイン論 II
		1	デザイン論 III
2			編集論

造形総合科目

単位数 通	単位数 面	単位数 メ	授業科目名
2			デッサン A
	2		デッサン B
2			デッサン表現
2			絵画研究 I A
	2		絵画研究 I B
2			絵画研究 II A
	2		絵画研究 II B

単位数 通	単位数 面	単位数 メ	授業科目名
	2		絵画研究 III
	2		版表現 I
	2		版表現 II
	2		彫刻 I
	2		彫刻 II
	2		彫刻 III
	2		彫刻 IV

単位数 通	単位数 面	単位数 メ	授業科目名
	2		彫刻 V
1	1		工芸 I
1	1		工芸 II
	2		ガラス基礎実習 I
	2		ガラス基礎実習 II
	2		テキスタイル基礎実習 I
	2		テキスタイル基礎実習 II

造形総合科目

単位数 通	単位数 面	単位数 メ	授業科目名
	2		金工基礎実習Ⅰ
	2		金工基礎実習Ⅱ
	2		陶磁基礎実習Ⅰ
	2		陶磁基礎実習Ⅱ
	2		木工基礎実習Ⅰ
	2		木工基礎実習Ⅱ
	2		デザインⅠ
2			デザインⅡ
	2		ブックバインディング
2			映像メディア表現Ⅰ
1	1		映像メディア表現Ⅱ
2			レタリング
2			タイポグラフィ
2			イラストレーション
1	1		絵本
2			パッケージデザイン
1	1		ファッションデザイン
2			図法製図Ⅰ
1	1		図法製図Ⅱ
2	1		マルチメディア基礎
	2		コンピュータ基礎Ⅰ
2			コンピュータ基礎Ⅱ
	1		デジタルファブリケーション実習
2			造形基礎Ⅰ
1			造形基礎ⅡA
	1		造形基礎ⅡB
1			造形基礎ⅢA
	1		造形基礎ⅢB
2			造形基礎Ⅳ
	1		デジタル造形基礎Ⅰ
	1		デジタル造形基礎Ⅱ
2			デザイン基礎ⅠA
	2		デザイン基礎ⅠB
2			デザイン基礎ⅡA
		2	デザイン基礎ⅡB
2			デザイン基礎ⅢA
	2		デザイン基礎ⅢB
2			デザイン基礎ⅣA
	2		デザイン基礎ⅣB
		1	写真表現

学科別専門科目

単位数 通	単位数 面	単位数 メ	授業科目名
			〈絵画表現コース〉
2			必修科目 絵画表現基礎ⅠA
	2		必修科目 絵画表現基礎ⅠB
1			必修科目 絵画表現 ⅢA
	2		必修科目 絵画表現 ⅢB
1			必修科目 絵画表現 ⅣA
	2		必修科目 絵画表現 ⅣB
1			必修科目 絵画表現 ⅤA
	2		必修科目 絵画表現 ⅤB
1			必修科目 絵画表現 ⅥA
	2		必修科目 絵画表現 ⅥB
	1		必修科目 絵画表現演習
1			必修科目 絵画表現 ⅦA
	2		必修科目 絵画表現 ⅦB
4	2		必修科目 卒業制作
2			選択必修科目 絵画表現基礎Ⅱ
	2		選択必修科目 絵画表現基礎Ⅲ
	2		選択必修科目 絵画表現基礎Ⅳ
1			選択必修科目 複合的表現 ⅠA
	2		選択必修科目 複合的表現 ⅠB
1			選択必修科目 複合的表現 ⅡA
	2		選択必修科目 複合的表現 ⅡB
			〈日本画表現コース〉
	2		必修科目 日本画基礎Ⅰ
2			必修科目 日本画基礎Ⅱ
1			必修科目 日本画基礎ⅢA
	2		必修科目 日本画基礎ⅢB
1			必修科目 日本画基礎ⅣA
	2		必修科目 日本画基礎ⅣB
2			必修科目 日本画基礎Ⅴ
1			必修科目 日本画応用ⅠA
	2		必修科目 日本画応用ⅠB
1			必修科目 日本画応用ⅡA
	2		必修科目 日本画応用ⅡB
	1		必修科目 日本画表現演習
1			必修科目 日本画応用ⅢA
	2		必修科目 日本画応用ⅢB
4	2		必修科目 卒業制作
2			選択必修科目 日本画研究Ⅰ
	2		選択必修科目 日本画研究Ⅱ
	2		選択必修科目 日本画研究Ⅲ
			〈デザイン総合コース〉
1			必修科目 デザイン総合研究Ⅰ
		1	必修科目 デザイン総合研究Ⅱ
	2		必修科目 デザイン総合研究Ⅲ
	2		必修科目 デザイン総合研究Ⅳ
		2	必修科目 デザイン総合研究 Ⅴ
			必修科目 デザイン総合研究 Ⅵ
2			必修科目 卒業制作
2	2		選択必修科目 情報形成デザインⅠA
	2		選択必修科目 情報形成デザインⅠB
2			選択必修科目 情報形成デザインⅡA
		2	選択必修科目 情報形成デザインⅡB
1			選択必修科目 情報形成デザインⅢA
	2		選択必修科目 情報形成デザインⅢB
1			選択必修科目 情報形成デザインⅣA
	2		選択必修科目 情報形成デザインⅣB
		2	選択必修科目 情報形成デザインⅤB
2			選択必修科目 環境形成デザインⅠA
	2		選択必修科目 環境形成デザインⅠB
2			選択必修科目 環境形成デザインⅡA
	2		選択必修科目 環境形成デザインⅡB
1			選択必修科目 環境形成デザインⅢA
	2		選択必修科目 環境形成デザインⅢB
1			選択必修科目 環境形成デザインⅣA
	2		選択必修科目 環境形成デザインⅣB
	2		選択必修科目 環境形成デザインⅤB
	2		選択必修科目 社会形成デザインⅠA
	2		選択必修科目 社会形成デザインⅠB
1			選択必修科目 社会形成デザインⅡA
	2		選択必修科目 社会形成デザインⅡB
1			選択必修科目 社会形成デザインⅢA
	2		選択必修科目 社会形成デザインⅢB
			〈芸術研究コース〉
2			必修科目 芸術研究学Ⅰ
		2	必修科目 芸術研究リサーチ
		1	必修科目 芸術研究特殊講義Ⅰ
2			必修科目 芸術研究学Ⅱ
		2	必修科目 芸術研究コンセプション
		1	必修科目 芸術研究特殊講義Ⅱ
2			必修科目 芸術研究学Ⅲ
		2	必修科目 芸術研究ライティング
		1	必修科目 芸術研究特殊講義Ⅲ
		2	必修科目 卒業研究Ⅰ
2			必修科目 芸術研究学Ⅳ
		1	必修科目 芸術研究特殊講義Ⅳ
		2	必修科目 卒業研究Ⅱ
		2	必修科目 卒業研究Ⅲ
1	1		選択必修科目 ミュゼオロジーⅠ
2			選択必修科目 メディア論
1	1		選択必修科目 生涯学習概論
4			選択必修科目 ミュゼオロジー Ⅱ
2			選択必修科目 博物館資料保存論
2			選択必修科目 博物館展示論
2			選択必修科目 博物館教育論
1	2		博物館実習

4 授　業　形　態

通信授業、面接授業（スクーリング）、オンラインでのメディア授業。多様な学び方を組み合わせて効果的に学習する。

ムサビ通信の授業形態には、「通信授業」「面接授業（スクーリング）」「メディア授業［オンデマンド・リアルタイム］」があります。レポートや実技課題作品を郵便やWebでやり取りする通信授業。実技科目を中心に、教員から直接指導を受ける面接授業（スクーリング）。また、オンライン上で講義動画を視聴し、質問やディスカッションを通して理解を深めながら進めるメディア授業のうちいずれか、もしくは複数の授業形態を組み合わせて学んでいきます。

通　信　授　業

充実した教材ときめ細かな添削指導

本学教員を中心に第一線の美術家や研究者が執筆した教科書を主に使用します。各授業科目には、課題や学習方法を詳しく解説した学習指導書が用意されています。これを指針に各自のペースで学習を進め、課題のレポートや実技課題作品を提出、担当教員によるきめ細かな添削指導を受けます。

Webの活用

レポート課題の提出・添削は郵便とWebによって行われます。インターネット初心者も「コンピュータリテラシーⅠ・Ⅱ」を受講することで、Web環境の幅広い活用方法を身につけることができます。

全国 10会場での科目試験

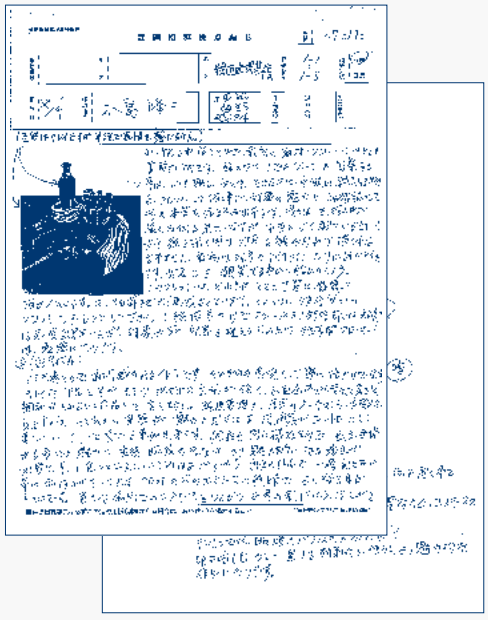
単位修得のための科目試験（筆記試験）は、札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、大阪、広島、福岡、鹿児島、沖縄の 10会場で年 6回、日曜・祝日に実施されます。

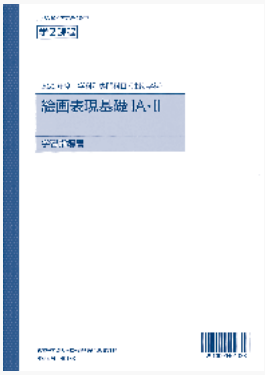




充実した教科書と独自の学習指導書

通信授業では、科目ごとに教科書と学習指導書が用意されています。教科書を参照し、課題や学習方法がまとめられた学習指導書に沿って学習を進めていきます。





通信授業課題の添削

提出された通信授業課題は、担当教員が一人一人に対して添削を行います。添削では習熟度に応じたきめ細かな指導が行われます。

面接授業（スクーリング）

対面による直接指導

実技科目を中心に、鷹の台キャンパス、三鷹ルーム、市ヶ谷キャンパスいずれかの会場で教員から直接指導を受けます。7月下旬から8月に行われる夏期スクーリングのほか、春期週末スクーリング（4～7月）、秋期週末スクーリング（9～10月）、冬期週末スクーリング（10～1月）の4つのブロックに分かれています。

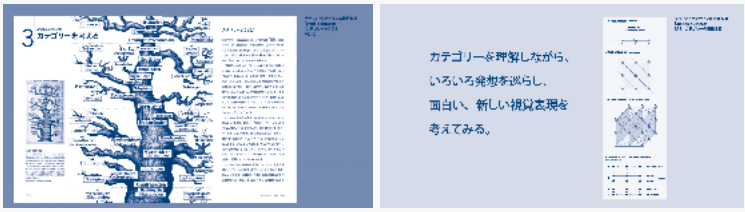


多くの学生が参加する夏期スクーリング

夏期スクーリングでは、最も多くの面接授業科目が開講されます。多くの学生と成果を共有しながら、より豊かな体験を通して学んでいきます。

学習効果を高める補助プログラム「オンラインプラス」

一部の面接授業科目には、授業の予習や復習を目的とした補助プログラム「オンラインプラス」が設置されています。PCやスマートフォン、タブレットで自由な時間にアクセスし、学習効果を高めることができます。



オンラインプラス

「造形ファイル」で技法の習得をサポート

造形表現における素材や道具、技法などの理解と習得をサポートするため、豊富な動画や静止画などを大学のWebページ上に掲載しています。

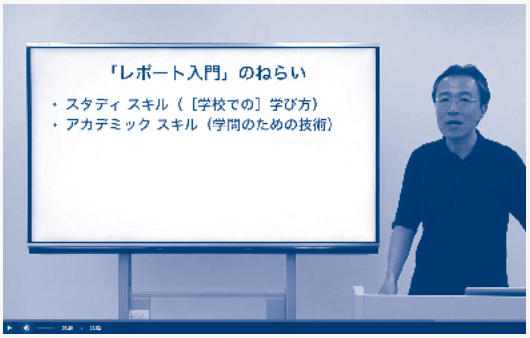


造形ファイル
http://zokeifile.musabi.ac.jp

メディア授業［オンデマンド・リアルタイム］

Webを利用した双方向授業

通学することなく、面接授業と同じように、双方向のコミュニケーションをWeb上で実現し、高い教育効果を得られるのが、ムサビ通信のメディア授業です。時間的・地域的制約を超えて学ぶことにより、よりスムーズな学習が期待できます。



メディア授業［オンデマンド］科目の様子
メディア授業［オンデマンド］科目「レポート入門Ⅰ」の講義動画。対面授業のような臨場感の下で授業を受けることができます。

修了テストまで Web上で完結

メディア授業は、オンライン上で完結する授業科目です。講義への参加はもちろん、レポート提出や、修了テストもWeb上で受験します。

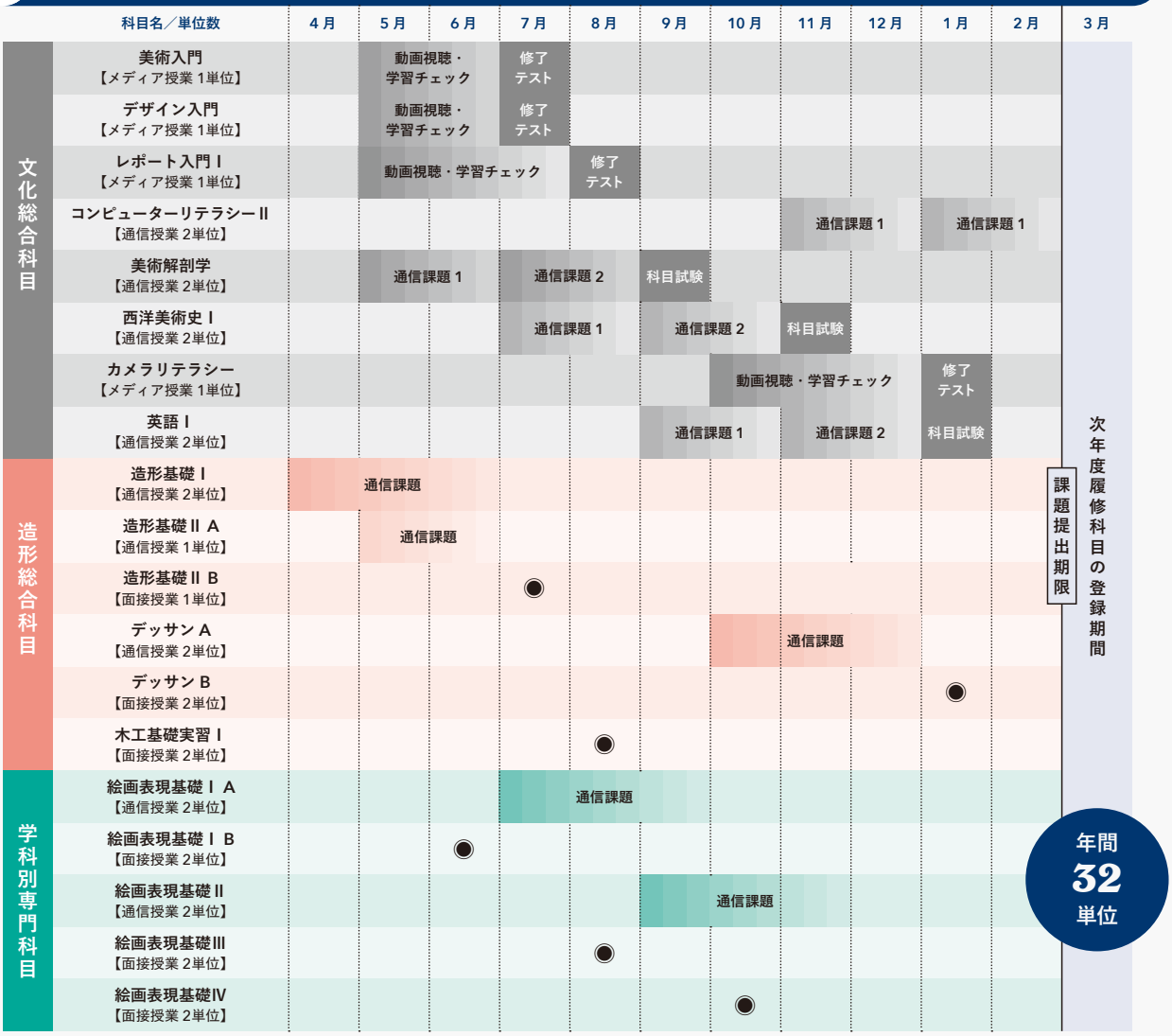
5 年間スケジュール

それぞれの学習ペースで一年間のスケジュールを組み立てる。

卒業には124単位が必要とされ、1年間に学習できる単位の上限は40単位（資格関連の科目を除く）。年度始めに履修登録し、単位の修得を目指します。1年間に履修する科目や学習スケジュールは大学が決めるのではなく、学生各自の都合や学習進度に合わせて、自由に選択・設定します。基準となるのは年間6回機会がある科目試験の受験日や、スクーリングの日程、メディア授業修了テスト。これらをもとに、年度始めに各自で年間の学習スケジュールを組み立てます。

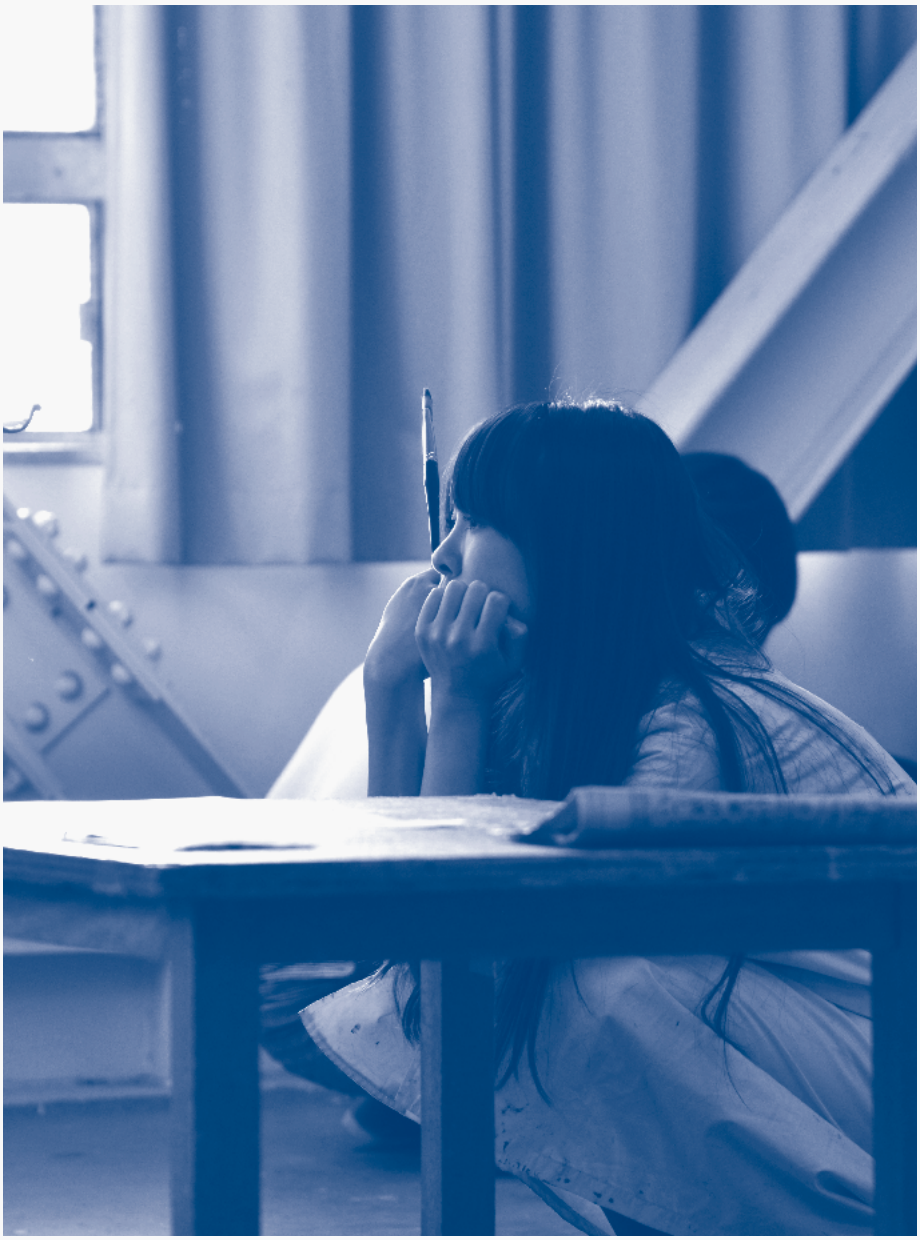
年間学習スケジュールの例 ［絵画表現コース／1年次生の場合］

◉…スクーリング



1年次の年間学習スケジュールの例を紹介します。1年次は造形力の基礎固めをする科目を中心に、関心がある領域へと学習の幅を広げていきます。

不合格その他の理由で年度中での単位修得が難しくなった場合は、翌年度に継続履修登録すると、前年度に引き続いた学習をすることができます。



ムサビ通信で学ぶ Q&A

新しい挑戦に不安はつきもの。まずはその一歩を踏み出してもらうために、ムサビ通信で学ぶ上での素朴な疑問をまとめました。

Q1 入学試験はありますか?

A1

ムサビ通信に入学試験はありません。書類による選考のみで、審査に合格すればどなたでも入学することができます。

Q2

美術・デザイン系以外の他大学を卒業しているのですが、
3年次編入学しても、周りの学生についていけるのか不安です。

A2

3年次編入学した場合でも、基礎的な造形力や理論から専攻分野の能力まで、順序よく身につけていくことができます。

Q3 通信教育は4年間での卒業が難しいと聞きましたが……。

A3

計画的に履修すれば4年間で卒業できるようにカリキュラムを構成してあります。ただし、お仕事等スクーリングの受講がスムーズにできないなどの場合、卒業まで5年以上かかる場合もあります。1年次入学の場合、最長10年間在籍できますし、入学翌年度からは休学制度（計3年間）もありますので、学習環境にあわせて学べます。

Q4 卒業までにスクーリングは どれくらい必要でしょうか?

A4

1年間で、20日間程度は必要とお考えください。4年間での卒業を希望される場合は80日間程度です。ただし、入学希望の学科・コースや科目の選択によって異なります。芸術文化学科の学科別専門科目(必修)にスクーリング科目はありません。

授業でパソコンは使いますか?

Q5

パソコンを使わない科目もありますが、メディア授業の受講やレポートの提出、また履修登録や学習状況の確認などはWeb上で行います。現在お持ちでない方は、ご購入をおすすめします。なお、デザイン情報学科の学生が必修科目のスクーリングを受講する際には、ノート型パソコンが必携です。

A5

Q6 より詳しく入学相談をすることはできますか?

A6

入学相談会の詳細はムサビ通信Webサイトでご確認ください。その他、電話やメールでの入学相談にも応じています。

在学生の声
VOICE
1

ムサビ通信で学びたい！
一人一人の入学への思いを聞いてみました

美術やデザインを本気で学びたい。その思いは同じでも、きっかけや目的は人それぞれ。在学生の皆さんに入学の動機を聞いてみました。

興味をどんどん広げたい

絵を描く自信を、ムサビ通信で学ぶことで得たいと思いました。
カリキュラムの内容が豊富で、興味深いと思ったのも入学の理由です。
（絵画表現コース　53歳　神奈川県）

読んでいた絵本の作者がムサビ通信の卒業生で、
その影響で興味を持ち、私も学んでみたいと思いました。
（絵画表現コース　22歳　神奈川県）

美大受験に落ちてしまいました。
浪人して1年間デッサンを重ねるよりも、
自身の表現を模索していきたいと思って
入学しました。
（絵画表現コース　20歳　北海道）

自分の表現を磨きたい

大きな絵を描いてみたい、
というのが動機です。
体力があるうちに始めたいと思って
入学しました。
（日本画表現コース　50歳　東京都）

日本画の制作について基礎から学びたいと思いました。
科目試験が近くの会場で受けられるのも
入学を後押ししてくれました。
（日本画表現コース　59歳　神奈川県）

仕事につながる学びを求めて

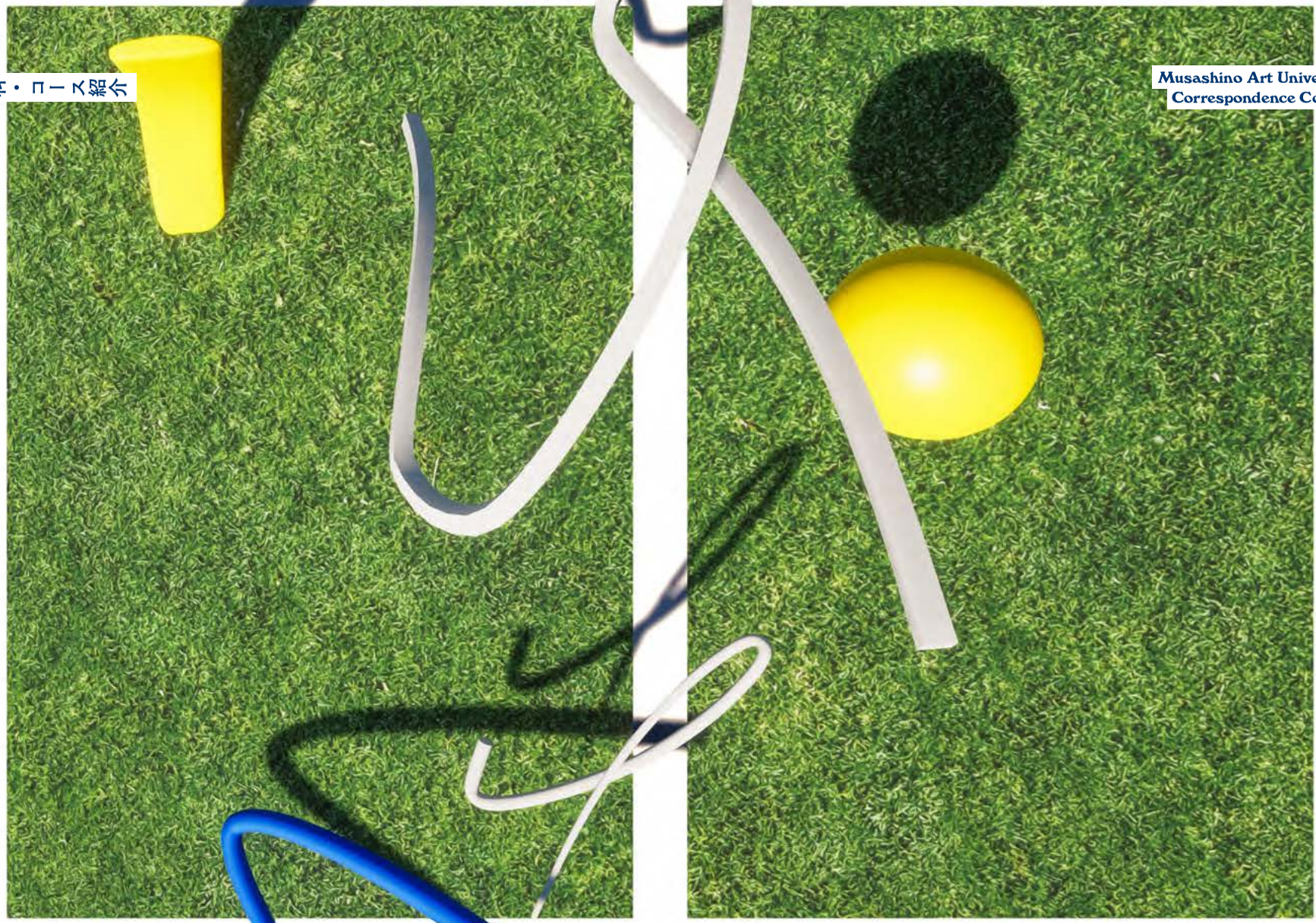
将来、美術に関わる仕事をしたいと考えています。
働きながら勉強することができて、
学費に無理がないのも決め手になりました。
（デザイン総合コース　26歳　岡山県）

アプリ開発のプロジェクトマネージャーをしていて、
一緒に働くデザイナーと、より深く会話できるように
なりたいと思っています。
（デザイン総合コース　31歳　東京都）

資格取得にチャレンジ

学芸員資格を取得するために入学しました。
子どもの受験と同じタイミングで、
親子それぞれ新しい環境で学んでいます。
（芸術研究コース　39歳　東京都）

西洋美術が好きで、よく美術館に通っています。
教育関係の仕事をしているので、美術について学びながら
教職の資格取得も目指したいです。
（芸術研究コース　24歳　千葉県）



コース紹介

より専門性を深め、
横断的な思考を育てる。
未来へつながる４つのコース。

ムサビ通信では、４つのコースから自身の専攻を選んで学んでいきます。油彩画を中心に新たな可能性を視野に入れた表現を学ぶ「絵画表現コース」、日本画ならではの描画材や技法からオリジナルな表現を探る「日本画表現コース」。情報・環境・社会を柱にして横断的にデザインを学ぶ「デザイン総合コース」に、芸術文化を読み解く視点や方法を学ぶ「芸術研究コース」。それぞれの関心に基づいて専門性を養い、アート・デザインの多様化に対応できる豊かな学びを提供します。

P.23

絵画表現コース
Painting Course

現代の美術では表現媒体の多様化が進み、これまでのカテゴリーには収まらないボーダレス化が起こっています。この現状と将来を見据え、油彩画を中心に版画やさまざまな媒体と手段による表現を選択的に学びます。伝統的な技術から現代の表現まで幅広い知識と教養を身につけながら、これまでのジャンルにとらわれない、新たな可能性をも視野に入れた表現を目指します。

P.29

日本画表現コース
Japanese Painting Course

日本画の特徴である描画材としての岩絵具、箔、泥、墨、支持体としての和紙、絹、板、漆喰などの素材や材料を扱い、線描やたらし込みなどさまざまな技法で描くことで、日本画ならではの表現を学びます。それと同時に、描くだけではない他の領域を横断的に学ぶことで、新たな表現を生み出し、現代絵画としての日本画の創造性を高めていきます。

P.35

デザイン総合コース
Synthetic Design Course

今やデザインは、コンピュータやネットワークの利用が当たり前となり、その意味や役割も大きく変わりつつあります。これまでデザインの領域では平面、空間、立体といった造形的なカテゴリーによって分けられていましたが、それらを一つのデザインとして捉え直し、「情報」「環境」「社会」を３つの大きな柱として、それぞれの専門領域を横断的に学びます。

P.41

芸術研究コース
Art Study Course

造形文化を中心に、芸術文化を読み解く視点や方法を学びます。芸術文化に関する認識の成り立ちを理解し、その研究方法を「資料・情報の調査と分析」「研究テーマの発想・構想」「成果の論述･表現」の実践を通して身につけ、最終的に卒業研究に取り組みます。また、必要な科目を履修することで学芸員資格を取得することができます。



油絵学科

絵画表現コース

Department of Painting

Painting Course

絵画表現コース

Diagram

多様な表現と描く楽しさを知り、思考を深め、
自分の「描きたいもの」に向き合う。

基礎を学ぶ

造形基礎I　デッサンA　デッサン表現
造形基礎II　デッサンB

知識を得る

美術入門
絵画表現材料
絵画空間論
絵画表現材料研究

1年次	2年次	3年次
絵画表現基礎 I	絵画表現III	絵画表現 V
絵画表現基礎 II・III・IV	絵画表現IV	絵画表現VI

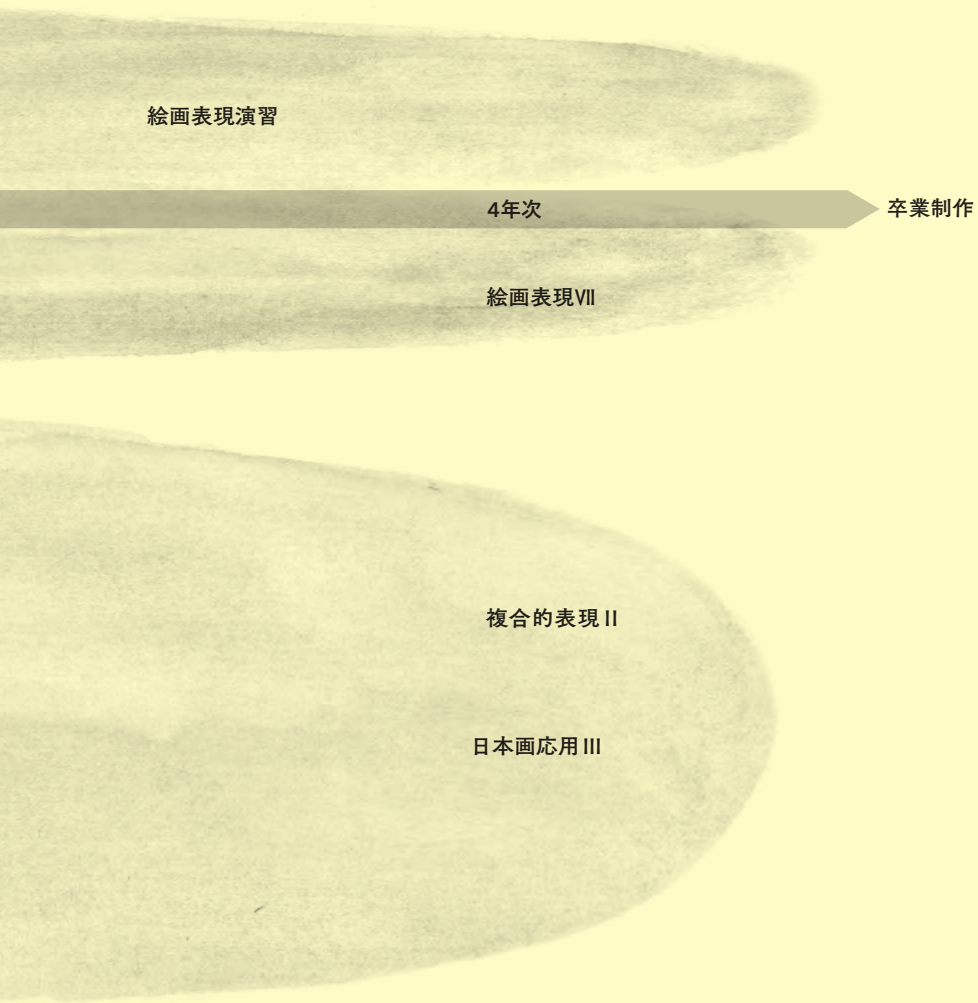
見方や考え方を学ぶ

技術を学ぶ

絵画研究 I	絵画研究 II	複合的表現 I
版表現 I	版表現 II	
日本画基礎 I	日本画基礎 II	日本画応用 I
日本画研究 I・II・III	日本画基礎 III	日本画応用 II
	日本画基礎 IV	

有史以前の洞窟画から数万年にわたる長い絵画の歴史の中で、絵画表現の素材も手段もさまざまに変化してきました。今日では、600年近い歴史を誇る油彩画はもとより、アクリル絵具や他の新しい素材も特別なものではなくなっています。また直接的に描くだけではなく、版を使った表現やそれらを複合的に使った表現、さらにはオブジェや装置を使ったインスタレーション（仮設展示）など、その手法は多様化し、これまでのカテゴライズでは収まりきらなくなっているのが現状です。
このような現代美術の状況の中で、絵画表現コースではそれぞれが適した表現を見出せるように科目を設置しています。初めて絵画を学ぶ人には、造形の本質を知り基礎力を養うための科目や、道具や材料について知るための科目を設けています。そして、油彩画はもとより、古典から現代までのさまざまな素材や表現手段を選択的に学ぶことによって、幅広い知識と経験を得ることができます。

絵画表現コースの必修科目では、絵画の表現に必要な知識を身につけていきます。対象の見方や捉え方、明暗と色彩、構図や構成、絵画空間の表現など、造形に必要なさまざまな要素に焦点を当てて学習します。また、実技科目だけでは不足しがちな造形の思考を学ぶ科目も設置しており、それぞれが描くテーマの発見につなげていきます。
これらはコースの主柱となる科目ですが、選択必修科目と造形総合科目には、表現方法ごとに適した素材や技術、媒体と手段を学ぶことができる科目を設置しています。たとえば、「版表現」では版画の版種ごとの技術、「絵画研究」ではテンペラやフレスコなど古典技術、油彩画の古典技法、そして「複合的表現」では現代美術に触れるなど、さまざまな技術や技法が習得できます。これらから自由に選択し、それぞれが求める表現に結び付けていきます。



※絵画表現コースの学生は、日本画表現コースの学科別専門科目を履修することができます。

絵画表現コース

科　目・課　題　例

exercise 01

絵画表現基礎Ⅰ B

［静物を描く］

物の見方や造形の考え方を学ぶ上で、最も取り組みやすく、かつ普遍性のある静物を描きます。構図や構成、空間の表現や色彩など、絵画表現の基礎を学ぶことになりますが、なにより、描くことの楽しさと奥深さを体感することが目的です。

exercise 02

絵画表現Ⅲ B

［人体の観察と表現］

人体は絵画史の中で最も多く描かれている普遍的なテーマであると同時に、造形を学ぶ上で多くの要素が含まれる重要な題材です。人体をしっかり観察し、そこで得られた発見を基に、それぞれの表現を目指します。

exercise 03

版表現Ⅰ

［木版またはリトグラフ］

現代の美術ではさまざまなメディアを使用した表現が行われていますが、その一つである版を通した表現を経験します。間接的で複数性という特性と表現の関係を体感しながら、その基本技法を習得します。

exercise 04

絵画表現Ⅵ

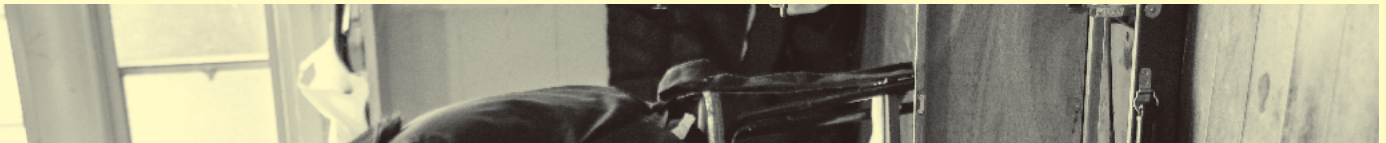
［それぞれのテーマを考える］

絵画表現とは、それぞれのテーマを考え、そのテーマに適したメディアや材料、表現方法で制作することが本来の目的です。そのための足掛かりとなる実験的な制作を試みます。









絵画表現コース

履修モデル

▌…文化総合科目 ／ ▌…造形総合科目 ／ ▌…学科別専門科目

通 … 通信授業 ／ 面 … 面接授業 ／ メ … メディア授業　　☆は必修科目、◎は選択必修科目

授業科目は P12 −13を参照してください。

1年次

- 美術入門 … メ 1単位
- 文化総合科目から自由に選択 … 11単位
- デッサンA … 通 2単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 8単位
- ☆ 絵画表現基礎Ⅰ A … 通 2単位
- ☆ 絵画表現基礎Ⅰ B … 面 2単位
- ◎ 絵画表現基礎Ⅱ … 通 2単位
- ◎ 絵画表現基礎Ⅲ … 面 2単位
- ◎ 絵画表現基礎Ⅳ … 面 2単位

2年次

- 絵画表現材料 … 面 1単位
- 文化総合科目から自由に選択 … 12単位
- デッサン表現 … 通 2単位
- 絵画研究Ⅰ A … 通 2単位
- 絵画研究Ⅰ B … 面 2単位
- 版表現Ⅰ … 面 2単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 4単位
- ☆ 絵画表現Ⅲ A … 通 1単位
- ☆ 絵画表現Ⅲ B … 面 2単位
- ☆ 絵画表現Ⅳ A … 通 1単位
- ☆ 絵画表現Ⅳ B … 面 2単位

3年次

- 絵画表現材料研究 … メ 1単位
- 文化総合科目から自由に選択 … 10単位
- 絵画研究Ⅱ A … 通 2単位
- 絵画研究Ⅱ B … 面 2単位
- 版表現Ⅱ … 面 2単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 4単位
- ☆ 絵画表現Ⅴ A … 通 1単位
- ☆ 絵画表現Ⅴ B … 面 2単位
- ☆ 絵画表現Ⅵ A … 通 1単位
- ☆ 絵画表現Ⅵ B … 面 2単位
- ☆ 絵画表現演習 … 面 1単位
- ◎ 複合的表現Ⅰ A … 通 1単位
- ◎ 複合的表現Ⅰ B … 面 2単位

4年次

- 文化総合科目から自由に選択 … 8単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 10単位
- ☆ 絵画表現Ⅶ A … 通 1単位
- ☆ 絵画表現Ⅶ B … 面 2単位
- ☆ 卒業制作 … 通 4単位・面 2単位
- ◎ 複合的表現Ⅱ A … 通 1単位
- ◎ 複合的表現Ⅱ B … 面 2単位

年間修得単位の目安

通信授業	約 17 単位
面接授業	約 11 単位
メディア授業	約 4 単位

通信授業	約 18 単位
面接授業	約 13 単位

通信授業	約 16 単位
面接授業	約 14 単位
メディア授業	約 1 単位

通信授業	約 20 単位
面接授業	約 10 単位

☆ 必修科目

必修科目には、絵画の基礎を学ぶ「絵画表現基礎」と、専門的な学習を行う「絵画表現」があります。「絵画表現基礎Ⅰ」では描くことの楽しさと同時に、その奥深さを知ることになります。そして「絵画表現Ⅲ—Ⅶ」では、より専門的な知識を身につけ、それぞれの表現に結び付けるための学習をします。また３～４年次には、造形の思考を学ぶための「絵画表現演習」があります。これらの学習の集大成として、「卒業制作」で各自のテーマと素材での制作を行います。

◎ 選択必修科目

「絵画表現基礎Ⅱ—Ⅳ」は基礎力を養う科目で、それぞれの志向に合わせて選択することになります。３～４年次の「複合的表現Ⅰ—Ⅱ」では、新たな表現の可能性として、現代美術の一端に触れることになります。これらの選択必修科目はそれぞれ異なる内容ですので、すべてを選択することもできます。

1 年次からの選択必修科目

◎ 絵画表現基礎Ⅱ—Ⅳ

3 年次からの選択必修科目

◎ 複合的表現Ⅰ—Ⅱ

＊初めて絵画の学習に取り組む人は、「造形基礎Ⅰ—Ⅱ」を履修することで、造形の最も基本となる考え方や技術を学ぶことができます。必修以外では、「美術入門」と「絵画表現材料」は、これから絵画表現を学ぶ上でぜひ選択しておきたい科目です。「デッサンA —B」「デッサン表現」は描写力と発想力を養い、「版表現Ⅰ—Ⅱ」では版画の基礎技術を身につけます。また、「絵画研究Ⅰ— Ⅲ」では油彩画の古典技法などを学びます。これらを選択的に履修することで、それぞれの表現の幅を広げていくことになります。



油絵学科

日本画表現コース

Department of Painting

Japanese Painting Course

日本画表現コース

Diagram

伝統的な日本画の技法を学び、
オリジナルな世界観を表現する。

基礎

日本画表現入門
日本画基礎 I
日本画基礎 II

用具を揃える・扱う

応用

日本画表現演習
日本画応用 I
日本画応用 II

自己表現の追求と素材の研究

日本画基礎 III
日本画基礎 IV
日本画基礎 V

基礎力の充実

1年次　2年次　3年次

日本画研究 I　日本画研究 II　日本画研究 III

制作工程の学習

日本美術史 I
美術の歴史と鑑賞
デッサン A
絵画研究 I
デッサン B
デッサン研究

教養

美術入門
日本画材料学
造形基礎 I・II
絵画表現基礎 I・II
絵画表現材料

明治時代の西洋文化取り入れとともに西洋画の対語として生まれ用いられるようになった「日本画」は、東洋画の伝統を受け継ぎながら日本の風土に根ざした独自の表現法を築き、今日さらに現代絵画が示す幅の広さと可能性を踏まえ、日本絵画の創造性を高めています。
日本画の特徴は描画材としての膠（にかわ）、岩絵具、箔、泥、墨や支持体としての和紙、絹、板、漆喰などが上げられます。それらの用具用材を生かした線描やたらし込みといった伝統的な技法は素材や材料と密接に結び付き、現在では新しい用具用材も生まれつつ、表現の可能性を育んでいます。
日本画表現コースでは、日本画領域を学ぶために用具用材を扱い使いこなすことを基本とし、それらを使って絵画として描く力を養っていきます。

カリキュラムは、まず日本画の用具用材を揃え扱うことから出発し、日本画を描く上で必要なさまざまな技法を習得したのち、自分なりの描きたい手法を編み出す科目へと、基礎から応用へ階段式に学習を進めていきます。
入門として位置付けられている「日本画基礎Ⅰ」は、日本画関連科目をスムーズに進めるための基本となる大切な科目です。そこから発展して、日本画を描くための制作工程研究、絵巻物を利用した現状模写、素材研究としての絹や麻に描く、箔を使ってまた個性の可能性を研究するなど個々がオリジナルな世界観へと繋げられる科目が用意されています。日本画を学ぶ上では描く学習だけでなく、日本の文化を考えることも重要です。必修科目の他にも、日本画に関する科目として「日本画材料学」のように教養面も含めた学習をすることを推奨します。
学生の自主的な学習はもちろん、その人なりの個性を伸ばすことに重点を置いた指導を行います。



※日本画表現コースの学生は、絵画表現コースの学科別専門科目を履修することができます。

日本画表現コース

科　目・課　題　例

exercise 01

日本画基礎 I

［日本画を描く］

日本画の用具用材の紹介をもとに、与えられたモチーフを使い、F15号以上の画面への紙本着彩を通して用具の扱い方および制作の基礎となる準備から完成までの工程を体験します。日本画の初学者がはじめに取り組む課題です。

exercise 02

日本画研究III

［墨を使って描く］

墨によるデッサンから、本画へのプロセスとしての小下図、大下図の追求を通して、最終的には大作を描きます。付立てや風景等を題材に描いた下図をもとに墨で大作を仕上げることで、独自の視点で捉えることと、水がもたらす表現の可能性を追求します。

exercise 03

日本画基礎III B

［古典模写］

古典作品の模写を行います。作品の鑑賞も含め、模写として描き再現することで、描写の工程、描写法など、日本画素材がどのように扱われ使用されているかを実践的に学び、古典作品に用いられているさまざまな技法や様式を検証することを目的とします。

exercise 04

日本画応用 I B

［意匠研究］

この課題では、日本画制作におけるオリジナルな表現、自己に合った表現を追求するためのモチーフの選択、取材の仕方や画面への処理法の研究へと学習を発展させます。さらには、金箔や銀箔などを用いた際の装飾性や意匠性の役割を学び、表現としてどのような可能性があるかを試みることも目標とします。





日本画表現コース

履　修　モ　デ　ル

▌…文化総合科目 ／ ▌…造形総合科目 ／ ▌…学科別専門科目

通 … 通信授業 ／ 面 … 面接授業 ／ メ … メディア授業　　☆は必修科目、◎は選択必修科目

授業科目は P12 −13を参照してください。

1年次

- 美術入門 … メ 1単位
- ☆ 日本画表現入門 … メ 1単位
- 文化総合科目から自由に選択 … 9単位
- 造形基礎Ⅰ … 通 2単位
- デッサンA … 通 2単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 6単位
- ☆ 日本画基礎Ⅰ … 面 2単位
- ☆ 日本画基礎Ⅱ … 通 2単位
- ◎ 日本画研究Ⅰ … 通 2単位
- ◎ 日本画研究Ⅱ … 面 2単位
- ◎ 日本画研究Ⅲ … 面 2単位

2年次

- 日本画材料学 … 通 2単位
- 日本美術史 … 通 2単位
- 文化総合科目から自由に選択 … 9単位
- 絵画研究Ⅰ B … 面 2単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 6単位
- 絵画表現基礎Ⅰ A … 通 2単位
- ☆ 日本画基礎Ⅲ A … 通 1単位
- ☆ 日本画基礎Ⅲ B … 面 2単位
- ☆ 日本画基礎Ⅳ A … 通 1単位
- ☆ 日本画基礎Ⅳ B … 面 2単位
- ☆ 日本画基礎Ⅴ … 通 2単位

3年次

- 絵画空間論 … 通 2単位
- 美術解剖学 … 通 2単位
- 文化総合科目から自由に選択 … 7単位
- 版表現Ⅰ … 面 2単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 10単位
- 複合的表現Ⅰ A … 通 1単位
- ☆ 日本画表現演習 … 面 1単位
- ☆ 日本画応用Ⅰ A … 通 1単位
- ☆ 日本画応用Ⅰ B … 面 2単位
- ☆ 日本画応用Ⅱ A … 通 1単位
- ☆ 日本画応用Ⅱ B … 面 2単位

4年次

- 文化総合科目から自由に選択 … 11単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 9単位
- 絵画表現基礎Ⅱ … 通 2単位
- ☆ 日本画応用Ⅲ A … 通 1単位
- ☆ 日本画応用Ⅲ B … 面 2単位
- ☆ 卒業制作 … 通 4単位・面 2単位

年間修得単位の目安

通信授業	約 19 単位
面接授業	約 8 単位
メディア授業	約 4 単位

通信授業	約 21 単位
面接授業	約 10 単位

通信授業	約 21 単位
面接授業	約 10 単位

通信授業	約 23 単位
面接授業	約 8 単位

☆ 必修科目

必修科目は、全ての日本画に関連する科目を履修する上で「日本画基礎Ⅰ」を先に受け、その他の必修科目は必要な力を養うように基礎から応用へと階段式に内容が組まれています。「基礎」がついている科目は用具を扱う基本を重点的に学び描く楽しさを味わい、「応用」がついている科目はオリジナルな作品を描くことを目的に高度な力を養うための課題内容になっています。

◎ 選択必修科目

選択必修科目は 3科目用意されており、その中から 1科目を選択することで卒業所要単位を満たすようになっています。理想としては 1年次に履修するのが望ましいですが、どの年次に履修しても効果のある内容になっています。3科目全てを履修するとさらに良い学習効果が得られます。

- ◎ 日本画研究Ⅰ
- ◎ 日本画研究Ⅱ
- ◎ 日本画研究Ⅲ

＊日本画を描いたことがない人や造形の基礎学習が不十分な編入生は、必要に応じて造形総合科目から「造形基礎Ⅰ、Ⅱ A、Ⅱ B」や「デッサン」「絵画研究」の名称が付いた科目の履修を推奨します。また文化総合科目では日本画に関係のある科目を中心に履修することを推奨します。

デザイン情報学科

デザイン総合コース



Department of Design Informatics

Synthetic Design Course

デザイン総合コース

Diagram

「情報」「環境」「社会」を３つの柱に、横断的にデザインを学ぶ。

発想のための視点と
具現化するためのスキルを学ぶ



自分自身のテーマ(問題)を発見し、
表現(解決)する力を育む

4年次

情報形成デザイン V

情報

情報形成デザイン IV

デザイン総合研究 V

デザイン論 III

卒業制作

社会

デザイン総合研究 VI

社会形成デザイン III

環境形成デザイン IV

環境形成デザイン V

環境

一般的にデザインの領域は、平面、空間、立体といった造形的なカテゴリーによって分けられていますが、デザイン総合コースでは造形的なカテゴリーではなく、「情報」「環境」「社会」を3つの大きな柱にし、横断的にデザインを学びます。
昨今、メディアや社会課題の多様化によって、さらに視野の広いデザインが求められるようになってきました。ソーシャルデザイン、UXデザイン、スペキュラティブデザインなど新しい分野が登場し、デザイン思考、サービスデザインといった、デザインの思考プロセスを社会やビジネスに役立てる手法がメソッド化されています。
デザイン総合コースはそのようなメソッドを学ぶのではなく、その先にある世界を見据えて、それぞれの学生が自分自身のデザインの領域を形成するコースです。

コースのカリキュラムは、自らの“デザイン”の志向性を重視しながら領域を横断的に学び、変化する社会に対応して総合的に問題を解決するため「デザインとそれを実装する力」を養う目的で構成されています。
必修科目群「デザイン総合研究」では、ワークショップやフィールドリサーチ、ディスカッションなどさまざまな実験的試作を通じて「構想する力」すなわち“デザイン”のもととなる発想を学びます。
選択必修科目群「形成デザイン」では「つくる力」すなわち「形成する力」を身につけ、構想を実現する力を学びます。科目の組み合わせによって、それぞれの学生の志向する分野、あるいは新しいデザイン分野の思考力とスキルを身につけることができます。
さらに、これからの社会において、コンピュータやネットワークの知識は不可欠です。基礎的な知識や、従来のデザイン系アプリケーションだけでなく、プログラミングによって、構想力や形成力を実装する力を学ぶこともできます。

デザイン総合コース

科　目・課　題　例

exercise 01

デザイン総合研究Ⅳ
［メディアの発見］

「メディアで遊ぼう!」をキーワードに、グループ単位でフィールドワークを行いながら、「メディア環境」を多角的に考察していきます。自らの手で実際にメディアとメディア環境を作り、実践・提案をします。プレゼンテーションでは領域に縛られないさまざまな実験的作品が発表されます。

exercise 02

情報形成デザインⅤ
［データグラフィックス］

これまでもグラフィックデザインの領域では、調査に基づくデータを視覚的に表すことによって、情報をわかりやすくデザインしてきました。この科目では自分で測り採ったデータをもとに新たなグラフィック表現を考えることや、プログラミングによって、視覚化のシステムを構築することを学びます。

exercise 03

環境形成デザインⅢ
［コミュニケーション空間の機能と景観］

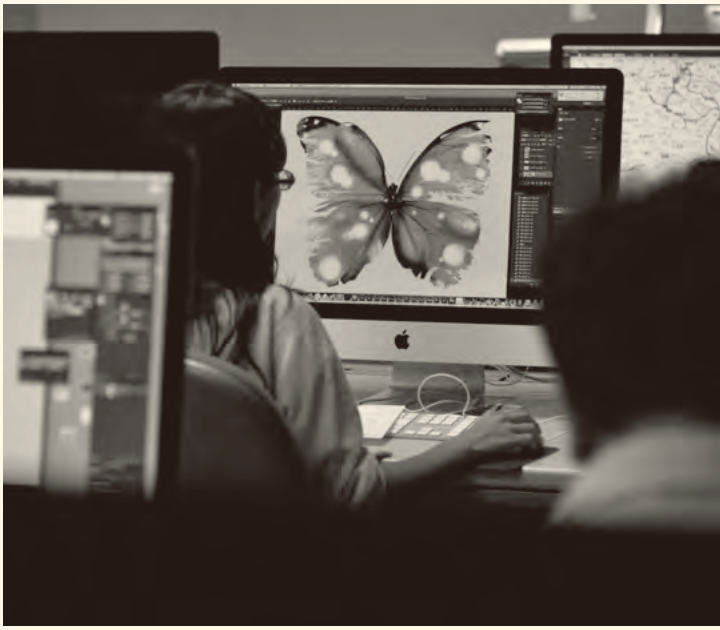
われわれの生活環境は、社会の進化と共にその幅を広げていきます。この科目では、指定された公園をコミュニケーション空間として捉え、周辺環境、土地の記憶、成立の背景などを考慮して独自のコンセプトを作成し、新しい価値を見出すための空間やプロダクトなどを提案します。

exercise 04

社会形成デザインⅢ
［コミュニティデザインの考察］

より良いコミュニティづくりのために、人を巻き込む仕掛けを作ることもデザインです。この科目ではコミュニティデザインの拠点見学やグループワークなどを通して、イベントの企画運営に必要な合意形成のためのプロセスのデザイン、プロデュースなど複合的要素を学びます。





デザイン総合コース

履　修　モ　デ　ル

▌…文化総合科目 ／ ▌…造形総合科目 ／ ▌…学科別専門科目

通 … 通信授業 ／ 面 … 面接授業 ／ メ … メディア授業　　☆は必修科目、◎は選択必修科目

授業科目は P12 −13を参照してください。

1年次

- ☆ デザイン入門 … メ 1単位
- 文化総合科目から自由に選択 … 15単位
- デジタル造形基礎Ⅰ … 面 1単位
- デジタル造形基礎Ⅱ … 面 1単位
- デザイン基礎Ⅰ A … 通 2単位
- デザイン基礎Ⅰ B … 面 2単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 6単位
- ☆ デザイン総合研究Ⅰ … 通 1単位
- ☆ デザイン総合研究Ⅱ … メ 1単位

2年次

- ☆ デザイン論Ⅰ … 通 1単位
- 文化総合科目から自由に選択 …8単位
- デザイン基礎Ⅲ A … 通 2単位
- デザイン基礎Ⅲ B … 面 2単位
- デザイン基礎Ⅳ A … 通 2単位
- 造形総合科目から自由に選択 …4単位
- ☆ デザイン総合研究Ⅲ … 面 2単位
- ☆ デザイン総合研究Ⅳ … 面 2単位
- ◎ 社会形成デザインⅠA … 通 2単位
- ◎ 社会形成デザインⅠB … 面 2単位
- ◎ 情報形成デザインⅠA … 通 2単位
- ◎ 情報形成デザインⅠB … 面 2単位

3年次

- ☆ デザイン論Ⅱ … メ 1単位
- 文化総合科目から自由に選択 …10単位
- 造形総合科目から自由に選択 …7単位
- ☆ デザイン総合研究Ⅴ … メ 2単位
- ☆ デザイン総合研究Ⅵ … 通 2単位
- ◎ 情報形成デザインⅡA … 通 2単位
- ◎ 環境形成デザインⅠA … 通 2単位
- ◎ 環境形成デザインⅡA … 通 2単位
- ◎ 社会形成デザインⅡA … 通 1単位
- ◎ 社会形成デザインⅡB … 面 2単位

4年次

- デザイン論Ⅲ … メ 1単位
- 文化総合科目から自由に選択 …12単位
- 造形総合科目から自由に選択 …9単位
- ◎ 情報形成デザインⅢA … 通 1単位
- ◎ 情報形成デザインⅣA … 通 1単位
- ◎ 環境形成デザインⅢA … 通 1単位
- ◎ 社会形成デザインⅢA … 通 1単位
- ◎ 社会形成デザインⅢB … 面 2単位
- ☆ 卒業制作 … 通 2単位・面 2単位

年間修得単位の目安

通信授業	約 18 単位
面接授業	約 8 単位
メディア授業	約 4 単位

通信授業	約 21 単位
面接授業	約 10 単位

通信授業	約 23 単位
面接授業	約 5 単位
メディア授業	約 3 単位

通信授業	約 23 単位
面接授業	約 8 単位
メディア授業	約 1 単位

☆ 必修科目

必修科目は、デザインの歴史や事例を通してその考え方に触れる「デザイン入門」「デザイン論」と、ワークショップやフィールドリサーチ、ディスカッションなどを通して構想する力を学ぶ「デザイン総合研究」によって構成されています。4年次には、自分自身のテーマを設定して学習の集大成となる卒業制作に取り組みます。なお、必修科目のスクーリングではノート型パソコンが必携です。

◎ 選択必修科目

2 ～ 4年次の選択必修科目は「情報」「環境」「社会」の 3 つのカテゴリに分かれ、さまざまな演習科目が用意されています。それらを学生の志向に合わせて、横断的に、あるいは専門的に組み合わせて学ぶことができます。
科目には通信授業（A）と面接授業（B）が用意されているので、学び方に応じて、どちらか、あるいは両方を選択することも可能です。

2 年次からの選択必修科目

- ◎ 情報形成デザインⅠ—Ⅱ
- ◎ 環境形成デザインⅠ—Ⅱ
- ◎ 社会形成デザインⅠ

3 年次からの選択必修科目

- ◎ 情報形成デザインⅢ—Ⅴ
- ◎ 環境形成デザインⅢ—Ⅴ
- ◎ 社会形成デザインⅡ—Ⅲ

＊造形やデザインの基礎学習が不十分な編入生は、必要に応じて造形総合科目から「造形基礎Ⅲ—Ⅳ」、「デジタル造形基礎Ⅰ—Ⅱ」、「デザイン基礎Ⅰ—Ⅳ」を履修することで、基礎から学び始めることができます。



芸術文化学科

芸術研究コース

Department of Arts Policy and Management

Art Study Course

芸術研究コース

Diagram

歴史や理論からアートを知的に探究する、真摯な研究者、優れた鑑賞者を育てる。

1年次	2年次	3年次
芸術研究学 I 造形に対する私たちの認識がどのように成立しているか、言語表現から社会制度までを視野に入れて学ぶ。	**芸術研究学 II**	**芸術研究学 III**
芸術研究リサーチ 造形に関する情報の探索と整理・活用の方法を学ぶ。	**芸術研究コンセプション** 調査・観察で得た気づきや情報をふまえて問題発見から仮説・推論を組み立てていくまでの思考トレーニング。	**芸術研究ライティング** 造形について語り、他者に伝える際の課題や手法について学ぶ。
芸術研究特殊講義 I 担当教員の特定テーマによるゼミ。文献講読、フィールドワークなど。提示された課題を受講者が分担して発表。	**芸術研究特殊講義 II**	**芸術研究特殊講義 III**
		卒業研究 I 各自のテーマに基づく造形に関する研究とその成果物の制作。論文、調査報告書など。
		博物館に関する科目 ミュゼオロジー I メディア論 生涯学習概論

展覧会やイベントなど、アートはますます身近になっています。またテレビや書籍、Webサイトや SNSなどでアートの情報が手軽に、大量に得られるようになっています。その反面、人気のアート作品の魅力が分からなかったり、専門家の評価に従うだけで自分なりの見方ができていないと感じることもあります。
アートの楽しみは、そうした状態から一歩前へ出て自分の視点で作品を捉え、発見を引き出し、それを人に伝えて共有することで、より広く、深いものになっていきます。
芸術研究コースは、見て、自由に感じて楽しむアートを、文化の所産として知的に理解し探究する対象として捉えます。アートについて調べ、疑問をもって主体的に考え、その成果を他者が理解できるよう客観的に表すための視点と方法を、体系的に学ぶコースです。

コースのカリキュラムは、造形を中心に芸術文化を研究するための基本的な知識と能力を養う目的で、通信授業とメディア授業によって構成されています。
「芸術研究学」では造形に対する私たちの認識の成り立ちを、言語表現から社会制度までを視野に入れて学びます。
「芸術研究リサーチ」「芸術研究コンセプション」「芸術研究ライティング」は、研究の方法論を学ぶ科目です。造形に関する情報の探索と分析の方法、調査・観察で得た気づきや情報を整理して問題発見から仮説・推論を組み立てていくまでの思考トレーニング、造形について語り他者に伝える際の課題や手法を段階的に学びます。
「芸術研究特殊講義」は特定テーマによるゼミナール形式の科目です。設定された課題について各受講者の持つ知見を共有しながら、造形に対する幅広く柔軟な見方を養います。
「卒業研究」では、自分で立てたテーマに基づいて、芸術文化に関する研究に取り組みます。

4年次

芸術研究学 IV

芸術研究特殊講義 IV

卒業研究 II　　**卒業研究III**

博物館教育論　　**ミュゼオロジー II**
博物館展示論　　**博物館実習**
博物館資料保存論

芸術研究コース

科目・課題例

exercise 01

芸術研究学 I

芸術研究の前提となる「芸術」および「作品」の概念とその成り立ちを理解し、造形を文化的・社会的な事象として研究するための視点を身につける、1年次の科目です。自身の鑑賞体験を、物（作品）・人（鑑賞者）・場（美術館）の 3 観点を用いて説明できることを目標に、レポート課題に取り組みます。

exercise 02

芸術研究リサーチ

造形芸術の研究やライティングに必要な文献・Web情報の探索と活用の方法、現地調査や人物取材の手法などを学ぶ､1年次の科目です。情報収集能力の向上と、集めた情報を編集・加工・引用して論文などの自己表現に活かせるようなスキルの獲得を目標に、メディア授業の方法で学びます。

exercise 03

芸術研究特殊講義 I

造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する､1年次の科目です。造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供することを目標に、メディア授業の方法で学びます。

exercise 04

ミュゼオロジー I

「ミュゼオロジー（博物館学）」の概念を理解し、博物館の成立から現在までの展開、博物館の定義と分類、博物館と博覧会等との関係、博物館における資料の区分や保存と公開、現代の博物館の動向、博物館の活動などについて、美術館の事例を中心として学ぶ、3年次の科目です。










パワフルエナジー
MacBook Air

芸術研究コース

履修モデル

▌…文化総合科目 ／ ▌…造形総合科目 ／ ▌…学科別専門科目

通 … 通信授業 ／ 面 … 面接授業 ／ メ … メディア授業　　☆は必修科目、◎は選択必修科目

授業科目は P12 −13を参照してください。

1年次

- 文化総合科目から自由に選択 … 15単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 10単位
- ☆ 芸術研究学 I … 通 2単位
- ☆ 芸術研究リサーチ … メ 2単位
- ☆ 芸術研究特殊講義 I … メ 1単位

2年次

- 文化総合科目から自由に選択… 13単位
- 造形総合科目から自由に選択 … 14単位
- ☆ 芸術研究学 II… 通 2単位
- ☆ 芸術研究コンセプション… メ 2単位
- ☆ 芸術研究特殊講義 II… メ 1単位

3年次

- 文化総合科目から自由に選択 …14単位
- 造形総合科目から自由に選択 …8単位
- ☆ 芸術研究学 III … 通 2単位
- ☆ 芸術研究ライティング … メ 2単位
- ☆ 芸術研究特殊講義 III … メ 1単位
- ☆ 卒業研究 I … メ 2単位
- ◎ ミュゼオロジー I … 通 1単位・面 1単位

4年次

- 文化総合科目から自由に選択 …12単位
- 造形総合科目から自由に選択 …8単位
- ☆ 芸術研究学 IV …通 2単位
- ☆ 芸術研究特殊講義 IV … メ 1単位
- ☆ 卒業研究 II … メ 2単位
- ☆ 卒業研究 III … メ 2単位
- ◎ ミュゼオロジー II … 通 4単位

年間修得単位の目安

通信授業	約 20 単位
面接授業	約 3 単位
メディア授業	約 7 単位

通信授業	約 23 単位
面接授業	約 6 単位
メディア授業	約 3 単位

通信授業	約 25 単位
面接授業	約 1 単位
メディア授業	約 5 単位

通信授業	約 26 単位
メディア授業	約 5 単位

☆ 必修科目

必修科目は、芸術研究の理論を学ぶ「芸術研究学」と、研究の方法を学ぶ「芸術研究リサーチ」「芸術研究コンセプション」「芸術研究ライティング」、特定テーマによるゼミナールの「芸術研究特殊講義」によって構成されています。3年次からは、自分の研究テーマを設定して論文を制作する「卒業研究」に取り組みます。

◎ 選択必修科目

3 ～ 4年次の選択必修科目は、「博物館に関する科目」7科目から選択し、合計 6単位以上を修得します。

3 年次からの選択必修科目

- ◎ ミュゼオロジー I
- ◎ 生涯学習概論
- ◎ メディア論
- ◎ 博物館資料保存論
- ◎ 博物館展示論
- ◎ 博物館教育論

4 年次からの選択必修科目

- ◎ ミュゼオロジー II

＊文化総合科目は選択科目です。そのなかの「○○入門」や「○○リテラシー」は、ムサビ通信で学ぶための基礎知識が得られる科目です。また、美術の理論や歴史に関する科目は、卒業研究につながる多角的な視点を身につけます。同じく造形総合科目も選択科目です。さまざまな造形の技法や材料を体験することで、作品や作者を深く理解する土台が築かれます。学科別専門科目には、学芸員課程を履修する際に必要な「博物館に関する科目」の一部が含まれています。



在学生の声
VOICE
2

働きながら学習する秘訣は? ムサビ通信で学んでいる 社会人学生の声

ムサビ通信には働きながら学ぶ学生がたくさんいます。仕事との両立や時間の作り方、入学前に気になるポイントを語ってもらいました。

仕事との両立など、不安はあった?

働きながら学習を続けられるか不安でしたが、最短で卒業を目指すのではなく、長い目で計画を立てることにしました。仕事に直結する学びが得られて大いに価値を感じています。
（芸術研究コース　48歳　東京都）

会社にムサビ通信に通っている先輩がいて、学習状況などをよく相談しています。仕事が忙しく課題があまり進まないのが現状ですが、スクーリングを受講すると学習のリズムができ、軌道に乗りやすくなります。
（デザイン総合コース　27歳　長野県）

絵を学んだことがなく、入学前は内容についていけるか心配でした。美術の教員を目指して一歩ずつ基礎から学んでいます。
（絵画表現コース　29歳　東京都）

いつ、どうやって学んでいる?

空き時間、移動時間を活用して教科書や参考資料を読み、少しずつレポート課題を進めています。
（日本画表現コース　20歳　千葉県）

仕事の時間を自分で調整できるので「今日は課題の日」と決めて、まとめて取り組んでいます。夜はデッサンにあてています。
（日本画表現コース　48歳　福岡県）

朝、決めた時間に課題を進めています。スクーリングに通えるかは不安でしたが、あらかじめ年間スケジュールを決めれば予定を立てやすいです。
（絵画表現コース　34歳　東京都）

週末、図書館に行って学習しています。家だと TVを見てしまったりするんですよね。
（芸術研究コース　52歳　東京都）

私は仕事優先と決めて入学しました。できるときに興味のある課題を中心に取り組んでいます。
（デザイン総合コース　30歳　愛知県）





石村裕子「変わらないもの」「揺さぶられるもの」F100キャンバス、油彩
2022年度卒業制作

comment

特別でもなく、美しくもない、どこにでもありそうな藪の風景をモチーフに描いた。しかし、徹底した観察を行い、緻密な描き込みをすることで、自然界の神秘や節理のようなものまで感じさせる、崇高な風景に変えてしまった。なにより、描いている行為そのものを楽しんでいる作者の気持ちが、見る者に追体験するかのように伝わってくる。これこそが、この作品の最大の魅力であろう。
——吉川民仁教授（絵画表現コース）



小山洋子「石は流れ、木の葉は沈むⅠ」
S100キャンバス、アクリルインク、水干絵具、顔料、ドーサ
2022年度卒業制作

comment

薄めた絵具やインクを布や紙に浸み込ませる「ステイン」という手法で制作した。支持体の素材と色材の関係、事前の処理の有無、偶然性による効果などを確かめるため､沢山の試みをした。その上で、造形としての素材と色彩に還元し、独自の絵画空間へと昇華させた。この素材への徹底した追求は、半ば必然的に自分自身との対峙に転嫁され、作者の内面性をも感じさせる作品となっている。
――吉川民仁教授（絵画表現コース）



谷口明美
「Weinberg（葡萄畑）～光のレイアウト～」
S100キャンバス、油彩
2022年度卒業制作

comment

父親の古いモノクロ写真を基に描いている。一見するとノスタルジーのようなものを感じさせるが、あくまで父親の記憶（記録）であり、本人のものではない。しかも、かつて西洋絵画が追求してきた存在や奥行を否定し、あえて画像という 2次元で描こうとしている。そこには、光学的現象を記録する写真と、脳内の記憶の集積を「見たもの」とする私たちの捉え方の違いを逆説的に表しているようにも感じられ、絵画というものの定義を考えさせられる作品である。
――吉川民仁教授（絵画表現コース）





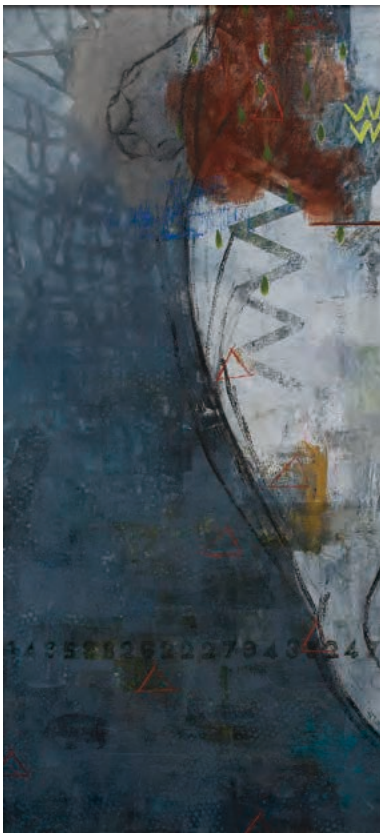
川嶋三郎「水の変容」F100 紙本彩色
2021年度卒業制作

comment

日本画の絵具の特徴である、水干～岩絵具の粒子差による手触りの面白さに着目し、水の三様の姿を通してそれを端的に表している意欲作である。素材差を損なわないように極限まで絞った表現に作者の意図が感じられ、「おきかえの美」を思わせる。
――室井佳世教授（日本画表現コース）

土屋絵里「カバ2」F80 紙本彩色
2022年度卒業制作





comment

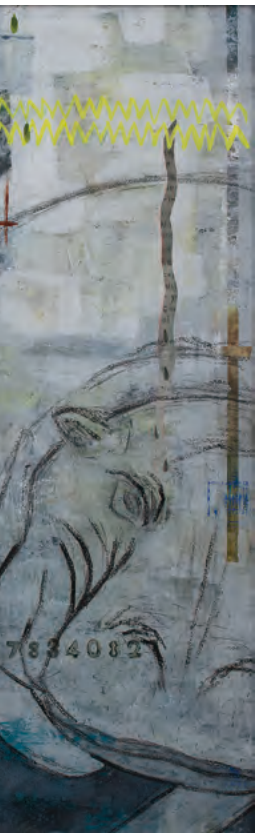
一見ラフに奔放に描いていそうに見えて、実に堅実な段取りを経て積み上げられている画面であることが感じられる。表現とかたち、色、素材、モチーフと向き合い、ひいては自己と真摯に対峙して辿った道程なのであろう。その痕跡が魅惑的である。
——室井佳世教授（日本画表現コース）

澤木識顕「平明」F100 紙本彩色
2022年度卒業制作



comment

様式美をあえて取り込むことにより平面のシルエットの美しさが際立つ。樹木の表皮の図柄やテクスチャーに盛り込まれた装飾性が画面を華やかにかつシックに彩どり、独特の世界観が醸されている。
——室井佳世教授（日本画表現コース）



石附絵理「矢印の生態　生活圏を網羅する」
2019年度卒業制作

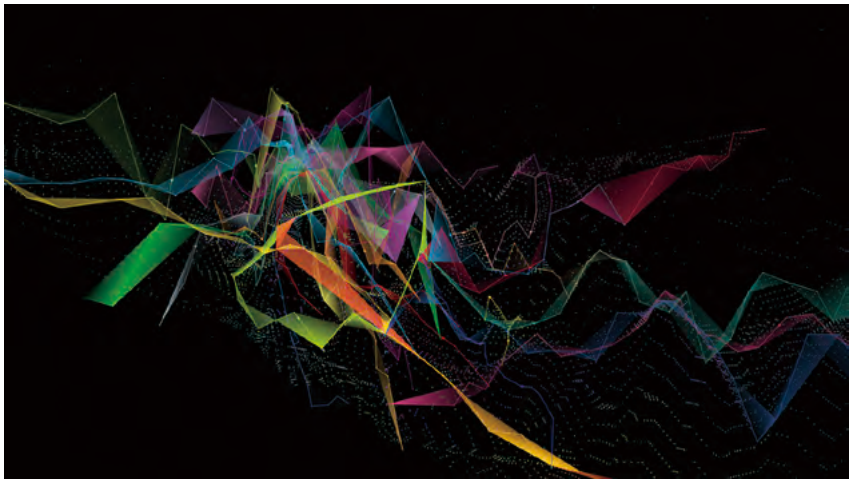


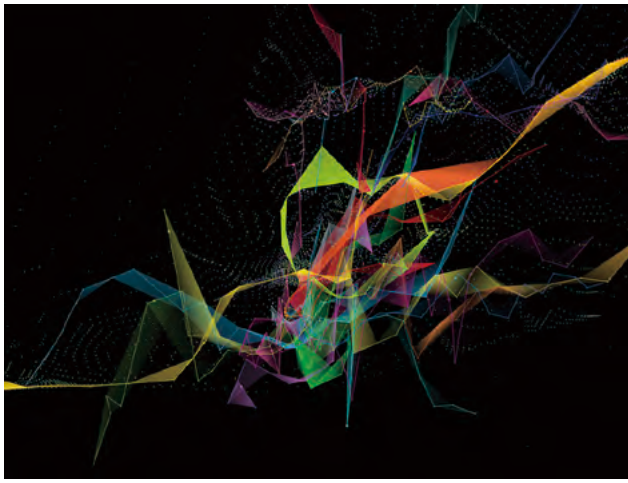




comment

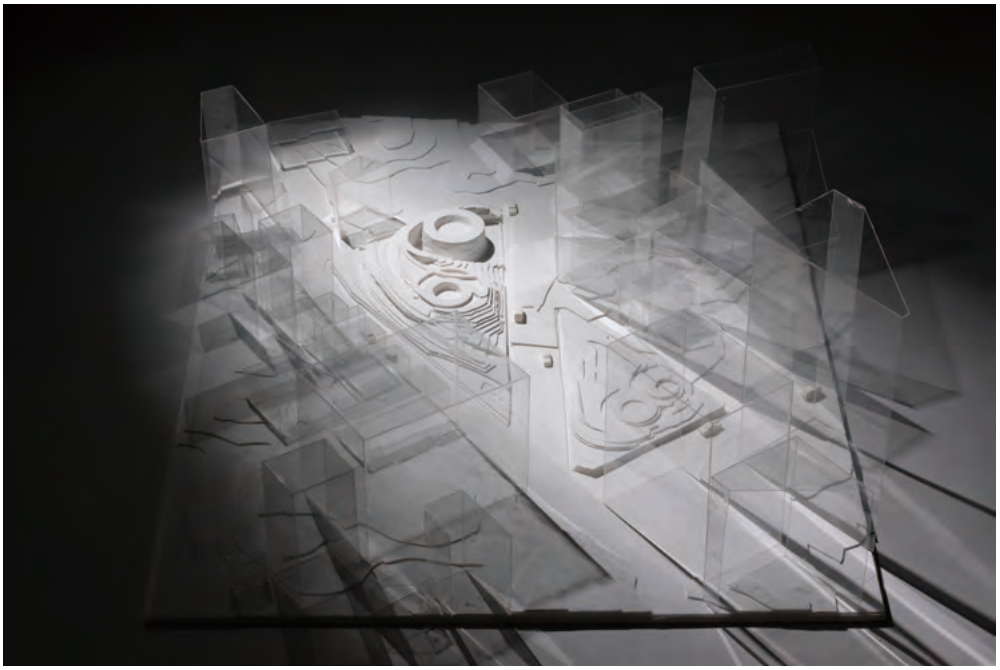
身の回りのあらゆるところに溢れている矢印。人と共生する存在として矢印を意識し始めてからの、多様な角度からの分析と飽くなき探求心には目を見張るものがある。駅構内での迷いをきっかけに、矢印自体に得意・不得意があり環境に左右されるとの分析から、矢印を生態に見立て、図鑑的な視点での編集を試みた。生態であるからこそ起こり得るアンコントロールな現象を、ビジュアルオピニオン的なウィットに富んだ結びとすることで、矢印を扱う者への投げかけを行なっている。
——上原幸子教授（デザイン総合コース）





鈴木悠子「Datascape」
2019年度卒業制作

長谷川藍子「脈動する街」今泉公園設計
2022年度卒業制作

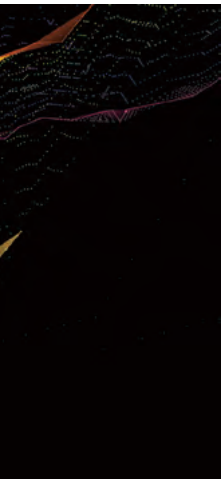






comment

福岡市にある今泉公園を題材にしたこの提案は、当該エリアの周辺が携えている歴史風土、文化、地理的背景を尊重しつつ、「脈動」というキーワードを重ねあわせながら新たな景観を生み出す試みであったと言える。そのキーワードが示しているとおり、人々が訪れる時間帯や季節、天候ごとに様々な風景を体験できるような工夫が幾重にも織り込まれ、その空間の中で佇んでいることを想像してみたくなる魅力を持った作品となった。
——荻原剛准教授（デザイン総合コース）





comment

一般に公開されている都市にまつわるデータを元に、動きのあるビジュアルに変換した作品。視覚的にデータを読み取るデータビジュアライゼーションという分野があるが、これはデータを素材に作者の意図を超えた色彩や形態の相互作用を生成する実験的作品である。そこには自然現象に似た連続性や揺らぎがあり、都市の裏側の姿を映し出している。

——清水恒平教授（デザイン総合コース）

田中一村　没後の展覧会に見る画家像の変遷

「異端の画家」が再評価されるまで

稲井田有希　2022 年度卒業制作論文

●目次（抜粋）

序論

第 1 章　展覧会史概観

1　メディアによる「異端の画家」の発見（没後から 1990 年代）

（1）初めての展覧会　（2）メディア主導の全国巡回展（第 1 回、第 2 回）

（3）ゆかりの地での展覧会

2　美術館が主導する一村展の始まり（2000 年代）

（1）全国巡回展（第 3 回）　（2）ゆかりの地での開催　栃木

（3）ゆかりの地での開催　九州　（4）ゆかりの地以外での展覧会

3　人物論から作品論への転換（2010 年以降）

（1）作品研究成果としての展覧会　（2）収蔵先の美術館での展覧会

（3）ゆかりの地の広がり　沖縄、石川　（4）周年企画としての展覧会

（5）海外での展覧会

第 2 章　一村像の変遷

1　「異端の画家」が再評価されるまで

（1）「異端の画家」像の形成　（2）一村像の変化と再評価

2　展示作品の変遷と一村像

（1）作品構成の分析　（2）代表作の展示状況

3　比較される画家の変遷

（1）例えられた画家　（2）師事した画家、影響を受けた画家

（3）展覧会で一緒に取りあげられた画家

第 3 章　変遷の背景

1　異端像形成の背景

（1）ニュース性を求めるメディアの特性　（2）異端への注目

2　再評価の背景

（1）一村作品収集と美術館設立　（2）美術史研究の変化

結論

●概要

日本画家・田中一村（1908-1977）は、生前無名であったが、没後 1984年に NHK「日曜美術館」で取り上げられると反響を呼び、展覧会の開催、作品集・評伝の発刊が相次ぎ、一躍ブームとなった。2001 年には晩年一村が制作した鹿児島県・奄美大島に専門の美術館が開館されるに至っている。

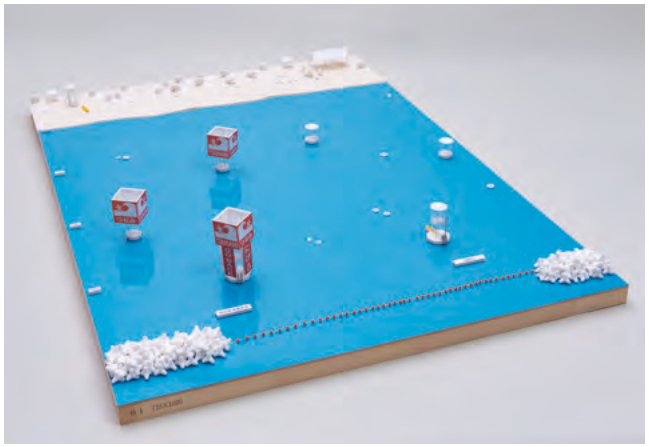
なぜ無名の画家が多くの人の心を動かしたのか、という疑問を解く一端として、本論文では、一村の没後から現在までの展覧会を振り返り、展覧会における一村像の変遷を探った。

一村の初期の展覧会はメディアが主導したもので、そこでは一村の強烈な生き方に焦点を当てた「異端の画家」という像が形成された。その後、美術館主導の展覧会が開催されるようになり、人物よりも作品に焦点が当てられ、伝統を踏まえて独自の画業を成就した画家である、と再評価されるようになった。このような画家像の変遷は、展示作品や比較される画家の変遷とも呼応するものである。更に、異端像形成の背景には、ニュース性を求めるメディアの特性と、異端への注目、があったこと、再評価の背景には、作品収集と美術館の設立、美術史の変化があったことを確認した。

comment

「孤高の画家」とも呼ばれる田中一村（1908-77）の展覧会を題材に、作家像の形成と変容を明らかにした独自性の高い研究。没後から近年までの展覧会が開催形態や企画趣旨をもとに 3つの時期に区分され、一村の認知が展覧会と結びついて形成されてきたことが分かる。一村とその作品に対する捉え方の把握は具体的で説得力に富み、美術史記述の枠組みの外側に置かれていた存在がその内側へと編入されていく過程を読み取ることができる。

——金子伸二教授（芸術研究コース）







尾崎菜奈「ポップアップアラート　海水浴場における津波警報付き監視台／休憩所の提案」
2020年度卒業制作

comment

作者は3年次のユニバーサルデザインの課題にて、ビーチでの聴覚障害者に向けた津波避難サイン設備を提案した。卒業制作においては、その原案に対して再考、確認、修正を繰り返すことで、普段はライフセーバーの監視塔および海水浴客の休憩所としても使われる仕様にたどり着いた。魅力的で実現性が高いコンセプトである。また圧縮空気でフレームを構築するサイン機構、潮流にあっても安定する形態や係留機構、レスキューボードの迅速な発信などを盛り込んだ詳細設計も説得力がある。本設備は安全で楽しいマリンリゾートの象徴となるために、今後、より造形表現の遊びを加えることを勧めたい。
——渡辺衆講師（デザイン総合コース）

日本における建築の展覧会　2000年以降の動向

「場」としての位置付けをめぐって

渋谷暢恵　2022年度卒業制作論文

●目次（抜粋）

序論
本論
第1章　建築展の手法とその背景
1.1. ギャラリーの時代　建築家個展から生まれた原寸大展示
1.2. 美術館の時代の始まり　経済悪化が日本人建築家個展を後押し
1.3. エスカレートする原寸大展示への否定的な論調
1.4. 建築を表象する写真と映像
1.5. エンターテイメント化する建築展への危惧
1.6. 雑誌やテレビで「名建築」
第2章　タイプ別に見る建築展の特徴と役割
2.1. 現存する建築家の表現の場
2.2. 物故建築家の業績回顧と貴重な資料の研究・公開の場
2.3. 建築ムーブメントの紹介と貴重な資料の研究・公開の場
第3章　近年の建築展に見る新しい切り口の実践
3.1. 建築家と建築史家以外の視点で生み出す「別の何か」
3.2. 図面も模型もなし
3.3. 異分野とのクロスオーバー
3.4. 都市を丸ごと建築展に
3.5. 創作上のプロセスやエネルギーを見せる
3.6. 建築の歴史に気づきを生む
3.7. 設計者以外の視点を入れる
第4章　建築展とは何のための場か
4.1.「紹介する場」以外の企画意図の変化を探る
4.2. 刺激と体験から建築家の思想を知る場
4.3. 回顧するにあたり検証し明らかにする場
4.4. 新しい視点や気づきを生む場
4.5. 知り、感じる場
4.6. 考える場
結論

●概要

絵画や彫刻など、実物展示を基本とする美術展と違い、建築展では建築作品そのものを展示できない。代わりに図面、スケッチ、模型、写真、映像といった資料群が展示されるが、建築の専門知識を持たない一般の観覧者にはわかりづらい。テレビ番組や建物見学会を通じて、建築作品そのものの魅力を一般むけにわかりやすく紹介する場が増える中、実物を展示しない建築展とは何のための場なのか。

本研究は、東京圏で2000年から2022年に開催された建築の展覧会を対象に、これまで建築展がどのような意図のもとに開催されてきたのかを調査するとともに、2008年から2018年に組まれた雑誌特集において専門家が建築展に対して問題提起し提案してきたことが、実際にどのように実践されてきたのかを検証した。その結果、主に建築家の業績紹介の場であった建築展が、近年は観客に自分たちの身の回りにある建築そのものに目を向け、考えさせる場へと変化してきたこと、切り口も手法も増え、さらに今後も変化していく可能性を秘めていることが明らかとなり、建築展は、「建築とは何か」を考えるきっかけとなる場、個人と建築、建築と社会を結ぶ間口を広げるための場であると結論づけた。

comment

建築を題材とした展覧会の課題と動向を考察した研究。近年増加傾向にある建築展が、建築文化や都市空間、建築的な思考や構想、建築を捉える視点までを展示内容とするのを、現物ではなく図面や模型によらざるをえない建築展の難点を乗り越える試みとして位置付けている。展覧会の趣旨の分析からは企画意図の拡張あるいは拡散が生じていることが実感でき、結果的に「建築の理解」を巡る従来の議論の狭隘さも浮き彫りにされている。
——金子伸二教授（芸術研究コース）

文化総合科目

※各科目の詳細はWebサイト「在学生の方(学2課程)」の『Webシラバス』をご覧ください。

幅広い文化・教養と理論を学び、さまざまな学問分野と造形をつなぐ科目群。

芸術や造形について理解を深めるためには、文化に対して広く関心を持ち、教養を身につけることが重要です。文化総合科目には、人文、社会、自然という諸学問分野の基礎的、応用的授業科目があり、それぞれの興味に合った科目を選択して履修することができます。また、美術系通信教育に必要なスキルを学んだり、創造の基礎力をつけるための科目なども設置されています。

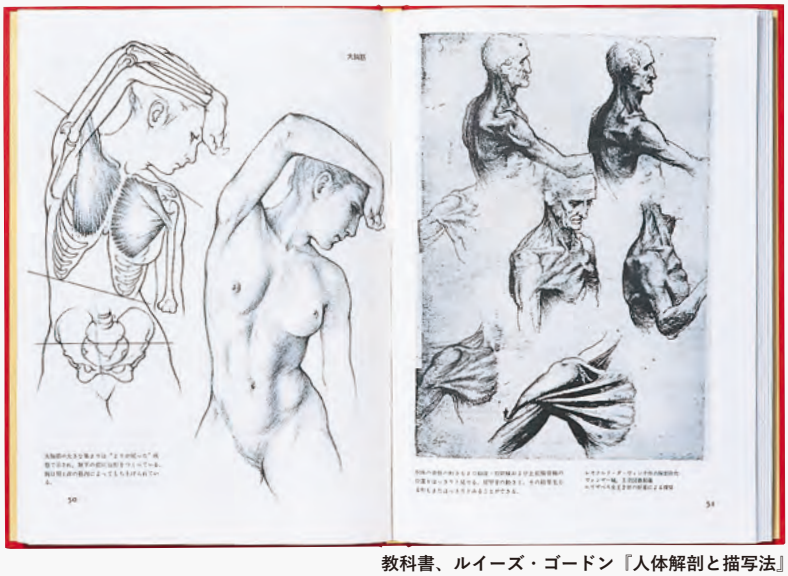
close up 01

美術解剖学

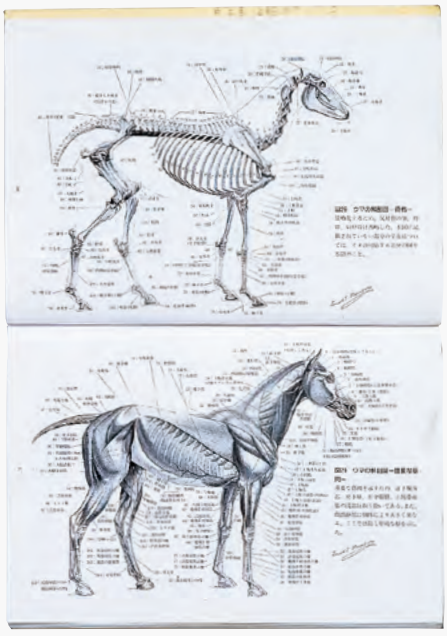
ヒトや動物の内部構造を知り、立体として捉える

「美術解剖学」では、ヒトや他の動物の体の中にある骨格や筋肉について学びます。体の内部構造に関する知識は、体表に現れるレリーフを意味のある「かたち」として認識するための助けとなるものです。ただアウトラインを追うだけの観察ではなく、立体としての形態やバランスを把握する力を養成していきます。

また、実際に造形作品を作成する際に、何を表現し何を省くかを、自分で選択できる目を養うことを目標とします。



教科書、ルイーズ・ゴードン『人体解剖と描写法』（上昭二訳、ダヴィッド社）



参考文献、アーネスト・T・シートン『美術のためのシートン動物解剖図』（上野安子訳、マール社）

close up 02

著　作　権　法

「表現」に関わる法律を具体的に学ぶ

この授業では、表現に携わる者が知っておくべき権利やルールを学びます。具体的には、憲法21条「表現の自由」と、これに関連する法律、また、著作権法をはじめとする知的財産権の分野の法律です。

法律について学習するためには、自分をとりまく社会を、問題意識をもって見ることが出発点となります。そしてその問題意識を、私たちに保障されたさまざまな「権利」や、民主的な制度や理念（公共性）と関連づけて考えることが必要です。具体的な問題について思考し、その実践を目指します。

close up 03

西洋美術史Ⅰ・Ⅱ

西洋美術の移り変わりを多角的に理解する

古今の美術作品に触れ、さまざまな文化と造形表現、創造のありように対する理解を深めることを目的とした科目です。「西洋美術史Ⅰ」では、紀元前4千年紀から15世紀までの古代～中世の美術について取り扱い、西洋文明の伝統がいかにして形成されてゆくかを考えます。「西洋美術史Ⅱ」では、ルネサンスから現代に至る美術の歴史を学びます。

また、他にも「日本美術史」「東洋美術史」「建築史」「デザイン史」「演劇史」など、造形表現の歴史を学ぶための充実した科目が開講されています。



close up 04

色　彩　学

「色とは何か」という問いへの理解を深める

色彩学は英語では「Science of Color」といい、光学や生理学、心理学などの学問と深い関わりを持ちます。色は感覚や経験で身につくものと捉えてしまわれがちですが、「色とは何だろう？」という疑問に答えられる人はきわめて少ないでしょう。

色彩学では、この疑問に答えるために必要となるさまざまな知識を学びます。例えば、「色は光である」「色は目ではなく脳で見るものである」「色は情報である」「色は数式で表せる」「色は感情を操る」など。教科書を精読し、4つの課題を通して、自分の目と手足を使いながら確かめていくことで、色に対する理解を深めていきます。



造 形 総 合 科 目

※各科目の詳細はWebサイト「在学生の方(学2課程)」の『Webシラバス』をご覧ください。

より豊かな専門学習のため
造形の基礎や
総合力を身につける科目群。

コースごとの専門的な学習を進めていくためには、まず基礎的な造形力を身につける必要があります。造形総合科目には、各自が専攻する美術・デザインのジャンルを問わず、あらゆる造形分野につながる基本的な能力を獲得するための科目が設置されています。造形の基盤となる「造形基礎」や「デジタル造形基礎」のほか、工芸のさまざまな素材に触れる実習科目、製図やタイポグラフィ、コンピュータによる表現など、たくさんの科目がラインアップされています。専攻するジャンルに限らず興味を広げ、多様な経験をすることは、より豊かな表現の可能性へと導いていくでしょう。

close up 01

造 形 基 礎 Ⅰ・Ⅱ

描き、創り出す、
造形表現の基礎をつくる

造形における基礎教育の在り方を、あらためて造形の根本に立ち返り、「学科や領域を超えて共通して実践できる造形の基礎」という考えからつきつめた結果、生み出されたカリキュラムがムサビ通信の「造形基礎」です。

「造形基礎Ⅰ」では、線を引く、絵を描く、色を塗る、という人間が本来持っている手や身体を使った行為を発揮して、身体性を活かしたドローイングや感情表現につながる色彩体験を具体的に学びます。

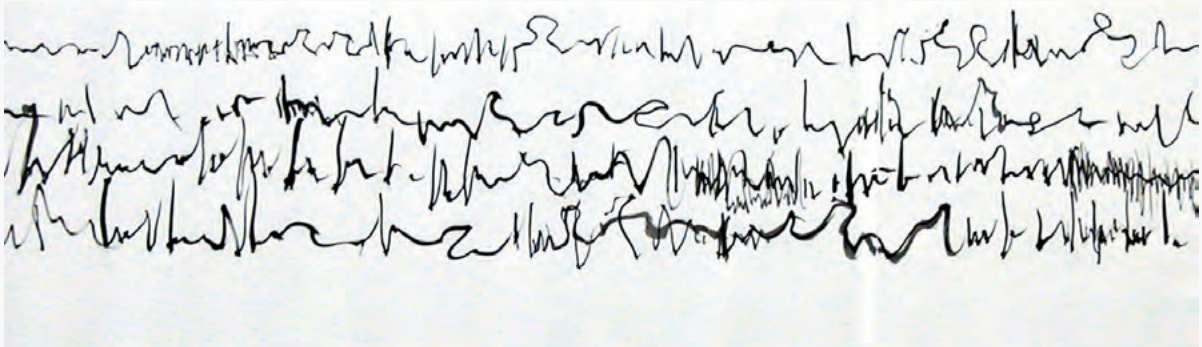
「造形基礎Ⅱ」では、観察と描写、つまり具体的な対象を目の前にし、見て描くことを行います。一般通念的な先入観を持たないように意識し、見えている像と描いている像を出来る限り近づける過程を通じて、現在の自分がどのように対象を見ているかを確認してみることがこの課題の目的です。



造形基礎Ⅱ A［観察と描写］
通信授業課題：自分の「手」をデッサン、クロッキーする



造形基礎Ⅱ B［観察と描写］
面接授業課題：丸太を描く



造形基礎Ⅰ［手と身体／ドローイング］
通信授業課題３：音楽を聴きながら帯状の紙にドローイングする

close up 02

造形基礎Ⅲ・Ⅳ

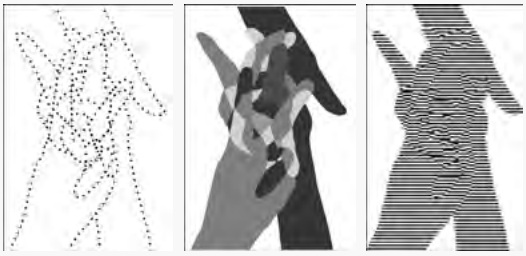
色彩、形、空間。
デザインの造形基礎を理解する

「造形基礎Ⅲ・Ⅳ」では、色や形、空間など、デザインに欠かせない造形感覚を養います。「造形基礎Ⅲ」は、デザインに必要な、色と形の修練に取り組みます。よい色彩感覚を養うために必要なのは、センスを磨くことではありません。新しい色や対比の発見、色の仕組みを理解することです。また形のアルゴリズムを考えることによって美しい形を発見できるのです。

「造形基礎Ⅳ」では、立体を空間に構成し、光を照射することで生まれる空間のさまざまな表情を観察し記録します。立体と空間、光と影、そこから生まれる豊かな空間の表情を探ることは、ものと空間の関係を考察することにつながります。



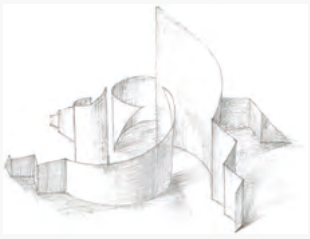
造形基礎Ⅲ A［色のレシピとハーモニー］
通信授業課題：身の回りの素材を採取し色として再現し、色のハーモニーを発見する



造形基礎Ⅲ B［形のアルゴリズム］
面接授業課題：手の写真を元に形を便化しながら、形のアルゴリズムを考える



造形基礎Ⅳ［紙の造形・空間を描く］
通信授業課題１：ケント紙をカットして紙の造形を制作する





造形基礎Ⅳ［紙の造形・空間を描く］
通信授業課題２：課題１で制作した紙の造形をスケッチ。最も良いと思われるものをデッサンする



完成したデッサン



ガラス基礎実習の様子

close up 03

工芸の素材別基礎実習

自然素材からものをつくり、工芸の魅力を味わう

造形総合科目の中には、鷹の台キャンパスの充実した工房の設備を使った工芸の素材別基礎実習があり、人気のある科目の一つになっています。

「ガラス基礎実習」「テキスタイル基礎実習」「金工基礎実習」「陶磁基礎実習」「木工基礎実習」の5つの素材から選んで取り組むことができ、実際のものづくりを通して、工芸の本質に触れることを目指します。大学の工房を使った面接授業（スクーリング）だけで行われ、それぞれの素材の加工方法と造形的な基礎を体験することができます。

1 学習の流れ 通信授業の科目例

文化総合科目
日本美術史［通信授業 2 単位］

レポートと添削指導を通して、日本美術を幅広く理解する。

通信授業だけで構成されている理論科目の一つ、文化総合科目の「日本美術史」では、絵画を中心に彫刻や工芸など、日本の造形全般について幅広く学習します。この科目の大きな特色は、作品固有の価値はもちろん、作者や受容者の意識、歴史的、文化的背景など、さまざまな視点から日本の造形文化について学ぶこと。そのためには、教科書を熟読するとともに、参考図書を利用したり、展覧会などに足を運んで日頃から視野を広げておくことが大切です。通信授業では、教員とじかに接することはありませんが、積極的な学習姿勢とその成果はレポートを通して教員に伝わり、きめ細かな添削によって十分な指導と評価を受けることができます。

履修登録から学習開始まで

履修登録をすると、学習に必要な教材が届きます。学習指導書に沿って教科書や参考文献などを見ながら、各自のペースで学習を開始します。





左：教科書
水尾比呂志『日本造形史』
（武蔵野美術大学出版局）

右：学習指導書
『文化総合科目・教職に関する科目』

通信授業課題 1

課題：12世紀のやまと絵の技法を伝える「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」の 2点を比較し、文化的背景などに留意しながら、それぞれの表現上の特色を述べる。

学習指導書をよく読み、一つ目の通信授業課題に取り組みます。この課題では、提示された絵巻について資料を集めて分析し、レポートを作成します。





レポートの提出※1

レポートを作成し、必要な資料などを揃えて提出します。担当の教員が一人一人のレポートを添削し、評価やアドバイスを書き込んで返却します。

●添削指導、レポート返却
●合格（不合格の場合はレポート再提出）

※1）科目によってはWebでのレポート提出も受け付けています。Web提出した場合は、教員の添削もWebで返却されます。

通信授業課題１添削より（抜粋）
二つの絵巻の表現技法とその効果について、具体的な場面を挙げつつ的確にまとめられています。また静と動という観点からの両者の比較がよくなされていました。（絵巻では）画面形式や表現効果を、絵画技法と関連させてみることが大切です。そのことは絵画制作の場面でも役立つことと期待しています。



通信授業課題２

課題：江戸時代の庶民文化の華とも称される浮世絵、その絵師の中から任意の一名を選び、作品を挙げて特質を論じる。



通信授業課題２　添削より（抜粋）
歌麿作品の特徴がするどい切り口で示されています。特に浮世絵の流れや技法を把握された上で、装いや色彩などについて留意された点が素晴らしかった。文中の「浮世絵そのものの美しさは現代においても色褪せず、いつまでも新しいものとして後世に伝えていきたい芸術のひとつである。」といったコメントに、豊かな学習成果が現れていました。

レポートの提出※2

課題１のレポートに合格したら、次の課題に取り組み、同様にレポートを作成し、提出します。

●添削指導、レポート返却
●合格（不合格の場合はレポート再提出）

※２）課題１をWeb提出した場合は、課題２もWeb提出となります。



科目試験

課題２に合格すると、科目試験の受験資格を得られます。申込手続を行い、試験に合格すれば、通信授業２単位分の単位習得となります。

●合格（不合格の場合は別の科目試験日に再受験可）

※科目試験は年６回、全国10会場で実施

単位修得

2 学習の流れ

面接授業の科目例

学科別専門科目
絵画表現基礎ⅠB［面接授業 2 単位］

静物画、絵画表現の基礎に取り組む。

絵画表現コースの学科別専門科目「絵画表現基礎Ⅰ B」は 6日間の面接授業（スクーリング）を通して、静物を対象にした絵画制作に取り組みます。植物、食物といった自然形態と、器物、布などを組み合わせた静物は、ものの見方や造形の考え方を学ぶ上で最も基礎的な内容を持ちながら普遍的でもある題材です。前半はクロッキーやデッサンを行いながら、構図や構成、対象相互の関係、形態や色彩などを追求し、後半の絵画制作に繋げるための取材（エスキース）を行います。後半は実際に絵具を使いながらそれぞれの表現を追求していきますが、ここでは絵具を使う楽しさと同時に奥深さを知ることが目的となります。教員から直接指導が受けられるほか、受講生のさまざまな作品に触れることは、その後の作品制作にも生かされる豊かな経験となるでしょう。

受講申し込み

スクーリングを受講するには、該当科目のスクーリング申込期間内に受講申込と受講料の納入を行います。受講条件を満たした場合は、「スクーリング持参物」の冊子を参照して持参する道具を準備し、開講場所と期間を確認してスクーリングに臨みましょう。

前半課題

「エスキース研究」

スクーリング前半の課題は、自由な素材を使ったクロッキーやデッサンで本制作に繋がるエスキースの制作をします。初日は前提講義から始まり、３日目まで各々で課題制作を行います。制作をしながら詳細なアドバイスを受けることができるのも、面接授業ならではの特長です。



「静物をモチーフとしたデッサン」

採　点　・　講　評

３日目の午後は講評を行います。形態や空間、明暗や色彩、構図や構成など、後半に繋がるそれぞれの方向性を決めていくことが目標になります。

自分の作品だけでなく、受講生のさまざまな作品に触れることで、見方や捉え方、考え方や感じ方をより豊かに学ぶことができます。

後　半　課　題

「絵　画　制　作」

スクーリングの後半３日間は前半で制作したエスキースを基に、油絵具やアクリル絵具などを使用した本制作に取り組みます。絵画における絵具の物質的な効果を実感しながら描くことで、その表現の幅を学びます。



採　点　・　講　評

スクーリングでは、限られた時間の中で集中して制作し、作品を完成させなければなりません。最終日の６日目は午前中まで引き続き制作を行い、午後は全員の作品を並べ、採点と講評を行います。

●合格（不合格の場合は再受講）





「静物」
15号キャンバスに着彩制作

単位修得

3 学習の流れ

面接授業の科目例

造形総合科目
デザイン基礎ⅠB［面接授業 2 単位］

課題を通して、視覚表現ならではの伝達方法を学ぶ。

デザイン系の面接授業（スクーリング）の例として取り上げる「デザイン基礎Ⅰ B」は、グラフィックデザインをコミュニケーションのための有効な手段としてとらえ、さまざまな手法を通して、その具体的な方法を学ぶ科目です。表現の仕方だけでなく、それがどのように伝わるかを検証しながらグラフィックデザインの基礎を学びます。スクーリングは受講生それぞれの個性、ものの見方や表現の多様性を知り、自分の作品を見直す機会でもあります。アイデアやコンセプトを形や色、構成といった要素にどのように展開していくか、徹底して考える 4日間になるはずです。

受講申し込み

スクーリングを受講するには、該当科目のスクーリング申込期間内に受講申込と受講料の納入を行います。受講条件を満たした場合は、「スクーリング持参物」の冊子を参照して持参する道具を準備し、開講場所と期間を確認してスクーリングに臨みましょう。

前半課題

「ピクトグラム」の制作

スクーリング前半の課題はピクトグラム。「歩く・走る・跳ぶ」といった人間の動きをピクトグラム化していきます。初日は全員が集まって前提講義ののち、グループに分かれてグループワークに取り組みます。
制作では、クイックピクトという独自のツールを使って、それぞれのピクトグラムを完成させていきます。



前提講義でのグループワーク。意見を出し合いながら、ことばによる伝達と視覚的な伝達の違いを理解する



ラフスケッチの中から本作品へと進めるスケッチを選び、クイックピクトで制作する



前提講義後、ユニットパターンを使ってラフスケッチの制作

採　点　・　講　評

シンプルなパーツの組み合わせで、躍動する動きの特徴が掴めているか。講評ではさまざまな受講生の作品を見比べることで、少しの違いでも伝わり方が変わってくることが分かるはずです。



「ピクトグラム」
指定されたパーツをアレンジして、「歩く」「走る」「跳ぶ」といった人間の動きを図形化することにより、視覚伝達の基本を学ぶ

オンラインプラスの活用

「デザイン基礎ⅠB」のスクーリングでは、オンラインプラスを併用します。オンラインプラスは自由な時間にWebで視聴できるコンテンツで、スクーリングの予習として活用することで学習効果を高めることができます。後半の課題に取り組む前に、課題の事前説明動画を視聴しておきます。

後　半　課　題

「コンピュータ表現」蝶課題の制作

スクーリング後半は、アイデアを図像にするという課題を通して、コンピュータによる表現を学習します。
この課題では、身の回りで起こる出来事や事柄を収集、分析し、特定の視覚形態である「蝶」に置き直し、その形態に意味を重ね合わせた視覚表現として作品化。アイデアを発想、展開するプロセスを学びます。

「コンピュータ表現」（蝶課題）
素材を取り込んだり、練り上げたアイデアを基にPhotoshopやIllustratorなどのアプリケーションを使って作品を仕上げていく





採　点　・　講　評

スクーリングの最終日には講評を行います。この課題では、アイデアの意図が色・形・構成から伝わるかどうか。そして、それが美しく表現できているかどうかが重要です。他の受講生の作品にも触れながら、情報の伝わり方や表現の多様性について考え、次の制作へと生かしていきましょう。

●合格（不合格の場合は再受講）

単位修得

4

学　習　の　流　れ

メディア授業［オンデマンド］の科目例

文化総合科目

カメラリテラシー［メディア授業 1 単位］

オンラインによる授業で身近なカメラについての正しい知識を得る。

写真はデザイン系の学生に限らず、画像に記録することや資料として提示するなど、さまざまな局面で求められることがあります。文化総合科目の「カメラリテラシー」では、表現としての写真技法ではなく、カメラやレンズの基礎的な知識や構造、特性、使い方などを中心に学びます。なお、メディア授業はオンラインを活用するため、インターネットに接続できる環境にあることが履修条件となります。

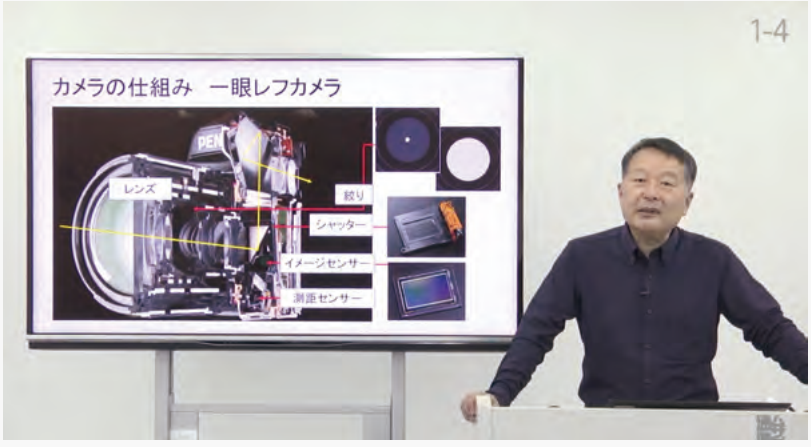
履修登録から動画視聴まで

履修登録を済ませ、受講申込をしたら、面接授業（スクーリング）と同様に、受講料を納入します。
そして開講期間になると、講義動画の視聴が可能になります。

動　画　視　聴

第 1 章「学習目的とカメラの仕組み」を学ぶ

メディア授業［オンデマンド］の基本的な学び方は「動画視聴」です。Web キャンパスにアクセスして動画を視聴しながら学習を進めていきます。1 章は約 60 分で構成されており、概ね 15分程度の動画を順番に視聴します。第 1章では、この科目の学習目的と、基本となるカメラの仕組みについて学びます。



動画視聴のイメージ。「カメラリテラシー」では、カメラと写真の技術的な知識を詳しく解説していく

学習チェック

第１章の動画視聴が終わったら、章ごとに設けられている「学習チェック」を受験します。択一式の理解度チェックで、正答できるまで繰り返し受験します。
合格基準を満たすと、次の章の動画が視聴可能になります。



学習チェックは択一式の選択問題。動画の内容を十分に理解できているかを確認する

ネットフォーラムの活用

メディア授業 [オンデマンド]では、教員への質問や、学生同士の意見交換の場として「ネットフォーラム（BBS)」が設けられています。学習開始から、単位を修得するまで随時利用することができます。



学習を進めていく中で疑問がある場合は、ネットフォーラムを積極的に活用し、内容をきちんと理解することが重要

動画視聴・学習チェック

第２章から第８章まで

第１章の学習と同様に、第２～８章まで各章の動画視聴と学習チェックに取り組み、学習を進めます。
「カメラリテラシー」では 8つの章を通して、カメラと写真表現の基礎となる技術的な知識を段階的に身につけていきます。

各章の構成

1 章 学習目的とカメラの仕組み
2 章 露出を理解する
3 章 露出と映像効果
4 章 レンズの役割
5 章 被写界深度とは
6 章 カメラとレンズを扱う知識
7 章 デジタルカメラを操作する
8 章 デジタルデータを扱う知識

修了テスト

全ての章の動画視聴と学習チェックを終了すると「修了テスト」の受験資格を得られます。申込手続を行い、修了テストに合格すれば、メディア授業１単位分の単位修得となります。
※通信障害等のリスクを回避するため、修了テストは有線のパソコン環境での受験をお願いしています。

●合格（不合格の場合は別の修了テスト期間内に再受験可　※修了テストは前期 3回、後期 3回、計年 6回実施）

単位修得

在学生の声
VOICE
3

こんな科目、こんな課題。実際に取り組んだエピソードを教えてください

新たな学びを身につけるのは楽しく、時に難しくもあります。まさに今、課題に取り組む学生たちに、リアルな学びのエピソードを教えてもらいました。

美術を本格的に学ぶのはムサビ通信が初めてです。「美術入門」や「デザイン入門」をはじめ、基礎的な科目はどれも美術に対する見方や考え方を知ることができ、その後の制作の大きな力になっています。
（絵画表現コース　23歳　東京都）

体の動きをピクトグラムにする「デザイン基礎Ⅰ B」のグループワーク。できあがりは単純に見えますが、姿勢や動作の瞬間を表すのは難しく、リサーチの重要さを痛感しました。
（デザイン総合コース　27歳　東京都）

「生涯学習概論」は博物館や美術館などの社会教育機関による、市民への学習貢献について学びます。さまざまな地域に溶け込んで発展していく美術や展示があることを知り、人々の営みと芸術のつながりを感じました。
（芸術研究コース　53歳　東京都）

「映像文化論」で、自身の体験をもとに「写真とは何か」を考える課題がありました。いつも写真を撮るときに何を意識しているのか、自分にとって写真はどういった存在なのかを改めて考えるいい機会になりました。
（デザイン総合コース　22歳　石川県）

「造形基礎Ⅰ」の課題では、記憶の中のワンシーンを描いたり、自分の身体よりも大きな紙にドローイングしたりしました。今まで試したことのない手法が面白くて、もっと描くことを楽しもうと思うきっかけになりました。
（日本画表現コース　22歳　東京都）

「日本画材料学」では古来からの日本画の材料について学びます。地元でも日本画の材料が作られていることを知って驚きました。
（日本画表現コース　59歳　神奈川県）

「気になる人」を描く課題に取り組んだ「絵画表現Ⅲ A」。苦手な人物画、自分でも少し納得いかないまま提出したら再提出になりました。そういうのって伝わるものなんですね。
（絵画表現コース　54歳　神奈川県）

「コンピュータ基礎Ⅰ」で Processing を使った実習があり、プログラミングについて学べたのがよかったです。
（デザイン総合コース　19歳　東京都）

「芸術研究リサーチ」の課題で、イサム・ノグチの年譜と文献目録を作成。取り組んでいる間は人生でこれまでにないほど図書館に通い続けました。提出したときの達成感がすごかった！
（芸術研究コース　47歳　東京都）

もともと理工学を研究していて、歴史が苦手でした。「西洋美術史Ⅰ・Ⅱ」で基礎から勉強し直し、歴史を学ぶ楽しさを味わっています。こんなに美術史って面白いんだ！
（芸術研究コース　41歳　東京都）


4

教　職　課　程

専門領域に対する
高度な知識、技能、感性を備えた
「美術」および「工芸」の教員を養成。

学校教育に携わる教員を目指す学生に向けて用意されているのが教職課程です。履修条件を満たした上で、2年次以降に登録手続きを行い、必要な単位を修得することにより、「美術」「工芸」の教員免許状を取得することができます。現職教員が2種免許状から1種免許状へ上進したり、他教科の免許状を取得するための科目等履修生制度もあります。

教職に関する科目

通 … 通信授業 ／ 面 … 面接授業
★は科目試験を実施する授業科目

- ★ 美術教育法Ⅰ … 通 2単位
- 美術教育法Ⅱ … 通 1単位・面 1単位
- ★ 美術教育法Ⅲ … 通 2単位
- 美術教育法Ⅳ … 通 1単位・面 1単位
- ★ 工芸教育法Ⅰ … 通 2単位
- 工芸教育法Ⅱ … 通 1単位・面 1単位
- ★ 教育原理Ⅰ … 通 2単位
- ★ 教師論 … 通 2単位
- ★ 教育原理Ⅱ … 通 2単位
- ★ 教育心理学 … 通 2単位
- ★ 特別支援教育 … 通 2単位
- ★ 道徳教育の理論と方法 … 通 2単位
- ★ 総合的な学習の時間の指導法 … 通 2単位
- ★ 特別活動の理論と方法 … 通 2単位
- 教育方法（ICT活用を含む） … 通 1単位・面 1単位
- ★ 生活指導の理論と方法 … 通 2単位
- ★ 教育相談論 … 通 2単位
- 教育実習Ⅰ … 面 2単位
- 教育実習Ⅱ … 面 2単位
- 教育実践の理論と方法 … 面 1単位
- 教職実践演習（中・高） … 通 1・面 1単位
- 介護等体験 … 通 1単位・面 1単位

取得可能な教員免許状

油絵学科
芸術文化学科

- ◆ 中学校教諭 1種免許状（美術）
- ◆ 高等学校教諭 1種免許状（美術）
- ◆ 高等学校教諭 1種免許状（工芸）

＊この他に、定められた授業科目の単位を修得する必要があります。

＊編入学生の場合は、すでに取得している免許状や単位などによって修得すべき単位数が大きく異なります。入学後 Webキャンパスの『教職課程ガイドブック（PDF）』をよく読み検討してください。なお、本学の教職課程は 2年次から卒業までの 3年間のカリキュラムとなっています。従って、3年次編入学の場合、2年間で免許状を取得することは困難です。詳細な内容については「募集要項」を参照してください。

＊ムサビ通信の卒業に必要な単位は124単位ですが、「教職に関する科目」は 30単位を上限として、この卒業所要単位に含めることができます。

学　芸　員　課　程

博物館・美術館の
学芸員資格を得るための
理論と実践に基づいた学習。

学芸員とは、博物館や美術館におかれる専門的職員です。博物館資料や作品の収集、保存、展示をはじめ、教育普及活動など関連した業務に広く携わることもあります。ムサビ通信の学生は、3年次に学芸員課程の履修登録手続きを行い、必要な科目を履修することにより、学芸員資格を取得することができます。

博物館に関する科目

通…通信授業 ／面…面接授業

生涯学習概論… 通 1単位・面 1単位
ミュゼオロジーⅠ… 通 1単位・面 1単位
ミュゼオロジーⅡ… 通 4単位
博物館資料保存論… 通 2単位
博物館展示論… 通 2単位
博物館教育論… 通 2単位
メディア論… 通 2単位
博物館実習… 通 1単位・面 2単位

＊この他に、定められた授業科目の単位を修得する必要があります。
＊学芸員課程の授業科目の多くは、芸術文化学科の学科別専門科目です。このため、同学科以外の学生が履修する際には、所属する学科・コースの面接授業日程と重なるなど、2年間の学習では単位修得が難しい場合があります。入学後 Webキャンパスの『学芸員課程履修ガイドブック(PDF)』をよく読み検討してください。なお、3年次編入学生が学芸員課程を、卒業までの2年間で履修することは困難な場合もあります。





教員インタビュー

将来に生かす ムサビ通信の学び



左から、清水恒平教授、吉川民仁教授、金子伸二教授

油絵学科
絵画表現コース
吉川 民仁教授

デザイン情報学科
デザイン総合コース
清水 恒平教授

芸術文化学科
芸術研究コース
金子 伸二教授

ムサビ通信への入学を考えているみなさんの中には、大学での学びが自分に合っているのか、卒業後に生かしていけるのかと迷っている人もいるかもしれません。そこで大学での経験をいかに将来につないでいくか、卒業生たちの進路や、確かな知識・技術を身につけるためのカリキュラムについて3人の教授に話を聞きました。

表現を高め、人生の糧とするために ——絵画表現・日本画表現コース

——今日は、大学での学びを「将来に生かす」ことをテーマにお話をうかがっていきたいと思います。まずは卒業後のイメージを掴むため、実際に卒業生たちがどのような道に進んでいるのか、学科ごとにうかがいたいのですが。

吉川民仁教授　絵画表現コース・日本画表現コースでの学びは、自分の表現を高めていくことが前提になります。ですから進路といっても特定の職業には結びつきにくいですが、教職に関わる学生に関しては、身につけた技術・知識が総合的に生かされていくことはあると思います。通信ではスケジュールを決めて自律的に学習することが必要になりますから、就職に進んだ人はしっかりやっているという話は聞きますね。

——作家として活躍される方もいるのでしょうか。公募展に応募されるとか。

吉川　中にはいます。卒業制作をそのまま春の公募展に出品する人もいますし、公募展は入選することが認められた証になりますから。一方で、人からの評価ではなく、自分で個展を開いて作品を発表していきたいという人もいます。ただ、なかなかすぐに結果が出るものではないんですね。1～2年で結果につながる人もいれば、個展など発表の機会を繰り返しながら続けていくことで10年後に評価される人もいる。そうすると世間からも作家と見なされますが、そこまでできる人は決して多くはありません。

作家を望んでも、望んでいるだけでは決してなれないので、自分で問いを立てて向き合っていく必要がある。自分が何をしたいのか、何を欲しているのか、プロの作家だって始終それを自分に問いかけているわけです。「あなたはどう生きたいんですか？」と問いかけているのとほとんどイコールの世界なんですよ。それが続けられる人は自分で切り開いていけると思います。



自分の表現を高めていくこと。大学での学びを、人生の喜びや糧にしてもらえれば

油絵学科 絵画表現コース　吉川民仁教授

――与えられた課題ではなく、自分に問い続けることが必要なんですね。

吉川　もちろん「好きなことに取り組みたい」という気持ちで入学してくる方も多いですし、作家にならずとも表現を続けていく方はたくさんいます。例えば同期の気の合う人たちでグループを作って、グループ展を毎年１回なり続けているっていう人たちは多いです。

大学で学んだことを、生きていく上での喜びとか、糧にしていく。どうやって人生を充実させるのかを考えれば、少なくとも学びをそういうところに反映させることができたらいいんじゃないのかなって、個人的にはそういうふうに思います。

社会の中で横断的にデザインを生かす――デザイン総合コースの場合

――デザイン総合コースはどうでしょうか。社会人の方も多く受講されている印象があります。

清水恒平教授　デザイン総合コースは、仕事をしながら学ぶ人が多いですね。転職したいという人や、デザイナーの気持ちを理解したいという人もいます。近年の傾向では、高校を卒業してすぐとか、他の大学で学んでから「やっぱりデザインの勉強がしたい」と入学する若い人も増えてきました。

卒業後は就職活動をしてデザイン系の職を得る人もいますし、すでに勤めている会社でデザインの知識が生かせる部署に異動したという話も聞きます。でも僕が一番期待しているのは、今の仕事に生かしてもらうこと。デザインの領域はどんどん広がっているので、その人の仕事の中で、デザインの視点を生かしてもらえたらいいなとは思っています。

――特定の技術だけじゃなく、広く応用できる考え方を学ぶということですよね。

清水　グラフィックをやりたいとか、プロダクトやスペースデザインがやりたいという人はそれを中心に履修することもできますが、限られた分野に特化したコースはありません。最近だと「UI/UXが学べますか」と具体的な質問されることもあるんですが……。

少し深い話になってしまうかもしれませんが、デザイナーはずっとユーザー体験を考えてデザインをしてきて、それに誰かが「UI」や「UX」と名前をつけてメソッド化したことで注目されるようになりました。それもデザインの一部ではあるけれども、デザイン総合コースでは、もっと根底にあるものから学ぼうという考えでカリキュラムを作っています。そういう意味では、どんな人に対してもデザインを学ぶことは有効だと考えています。

――卒業生で特徴的な仕事をしている人、活躍されている人にはどんな方がいますか？

清水　驚いているのは、プログラマーになる人が出てきたことです。授業によってはプログラミングを勉強するし、それを表現手段の一つにしてもらうという期待はありました。プログラミングが苦手でも、経験することで、論理的な思考を学んだり、技術の概要を掴んだりしてもらうことを想定していました。けれども最近は、それを突き詰めていって仕事にする人が出てきたし、逆にプログラマーやエンジニアの人が入学してデザインを学ぶ例も増えています。

もう一つは、やっぱり別の分野で学んでいたことや、働いてきた職能とデザインとを結びつけて新しい領域を開拓する人。いま本学の講師でもある角めぐみ先生は、もともと大学でジェンダーについて学んだり、IT関連のお仕事をされたあと、ムサビ通信でデザインを学んで、卒業してから「女性の生き方・働き方」を支える会社を立ち上げました。これまでの経験とムサビ通信で学んだことを組み合わせて、デザインの力を生かしてくれている人は、見ていてすごいなと思いますね。

研究から芸術と関わり、伝え支える
――芸術研究コースの場合

――芸術研究コースは芸術文化を研究したり、それを伝える技術を身につけるコースですね。

金子伸二教授　今の仕事や暮らしに美術の知識を生かそうという人が多いので、進路に特定の傾向はないのですが、他の学科に比べると大学院に進学する人が多いように感じます。

このコースは最終的に卒業論文を書いてもらいます。そこでさらに掘り下げたいテーマができて、他の通信制の大学院であるとか、人によってはムサビの通学課程の大学院に進んで研究を続けていく人が毎年１～２人いるかな。ボリュームとして多くはないですけれど、学科の特徴ではあるかもしれません。

あとはごく少数ですが、学芸員として展覧会の運営に関わっている人、企画や図録の編集とか、そういう仕事をしている人はいます。

――入学される方は、普段から美術に興味がある人が多いのでしょうか。

金子　在学生は30～40代を中心に、もっと教養を高めたいという動機で入学する方が多いかなと思います。ほとんどは普段から美術や展覧会が好きで、中には美術館のボランティアをされている方もいたり。でも、自分が作家やデザイナーになりたいということではなくて、ちょっと違う立ち位置で美術と関わっていきたいということですね。

ですから卒業後も、活動的な人は自分でアートプロジェクトの企画に携わったり、地元に帰って文化財保存の取り組みに参加したりとか、それぞれの形で学んだことを生かしてくれています。

ひとつの例としては、卒業論文のテーマで「手漉き和紙」をテーマにした学生がいて、その後、自分で手漉き和紙の普及に携わるNPOを立ち上げ、さまざまな和紙の産地とつながって普及を助ける取り組みやイベントを行っていますね。

――それは大学での研究をきっかけに？

金子　そうです。それと本人の資質というか、活動力もあって。

大学っていう場では一人一人に個別の目的があって、他の情報や教育の成果と組み合わせて、その人の中で生涯の学びが作られていくものだと思います。その目的のためにムサビ通信を利用してもらえるといいのではないでしょうか。

清水　学科それぞれ、違いがあると思います。

吉川　そうですね。まず美術――絵画表現・日本画表現コースから言うと、通信授業で身に着ける知識や基礎的な技術も必要ですが、スクーリングのように人と共有しながら表現する場は欠かせないと思います。個々の表現を高めていく上で、自己の表現を認められたいと思ったら、他者の表現を認めなければいけない。好き嫌いにかかわらず、多様な表現があるということを知るのが大事なんですね。

絵画・日本画のスクーリングは、それを１科目ごと３日間に凝縮して体験してもらいます。その中でいろいろな人の制作過程を見て、感じながら取り組んでみるという経験が、美術の場合は一番大きいのではないかなと思います。

――見る人がいて作品が成立する、自分の意図を伝えるという意味でも、人と一緒

経験を、未来へつなぐカリキュラム

――学生のみなさんは、それぞれに目的を持って入学されてくると思います。その後につながる学びを提供するために、カリキュラムではどんなところを重視されているでしょうか。



今の仕事に生かす。新たな領域を拓く。
どんな人に対しても
デザインを学ぶことは有効なはず

デザイン情報学科 デザイン総合コース　清水恒平教授



「研究」から芸術に関わる面白さ。一人一人のテーマや目的のために大学を活用してほしい

芸術文化学科 芸術研究コース　金子伸二教授

に学ぶ機会が必要なんですね。そして近年、最も大きく変化したのが、デザイン総合コースだと思います。

清水　デザイン総合コースは、領域ごとに分かれていた4コースが2020年度から一つにまとまってできました。社会が変わっていく中で、今までの専門が分かれた職能的なデザインだけではなくて、新たに生まれていくデザインの領域も見据えていかなければならないと、一つの「総合」したコースになったという経緯があります。横断的に選択できる形にしているので、ある程度、自分でカリキュラムを作れるのが特徴です。

一方で必修科目では、4年間かけて「デザイン論」や「デザイン総合研究」というシリーズに取り組むことで、軸をはっきりと持ってもらいたいと考えています。

――芸術研究コースはどうでしょうか。必修にはリサーチやライティングなどの科目もありますね。

金子　「研究」を名称に入れていることもあって、芸術研究コースは調べたり考えたり書いたり、言葉に関わることに集約してカリキュラムを構成しています。そういう専攻は美大以外にもあるんですけれども、ムサビ通信では実際に表現をする科目がたくさんあって、自らさまざまな材料や技法に触れることによって、より実感を持って理解できるようになったり、作り手の視点にわずかなりにでも共感できるようになったりする。それが、この専攻を美大で学ぶことの特色なのかなと考えています。

少し話を広げると、ムサビ通信には文化総合科目にかなりボリュームがあって、幅広い分野の科目を自由に選ぶことができます。するといろんな資質や適性が分かって、まだ自分が持っていなかった未知の部分を手に入れることができる。そういう体験ができることも意味があることだと思います。

これから、ムサビ通信で学ぶ人たちへ

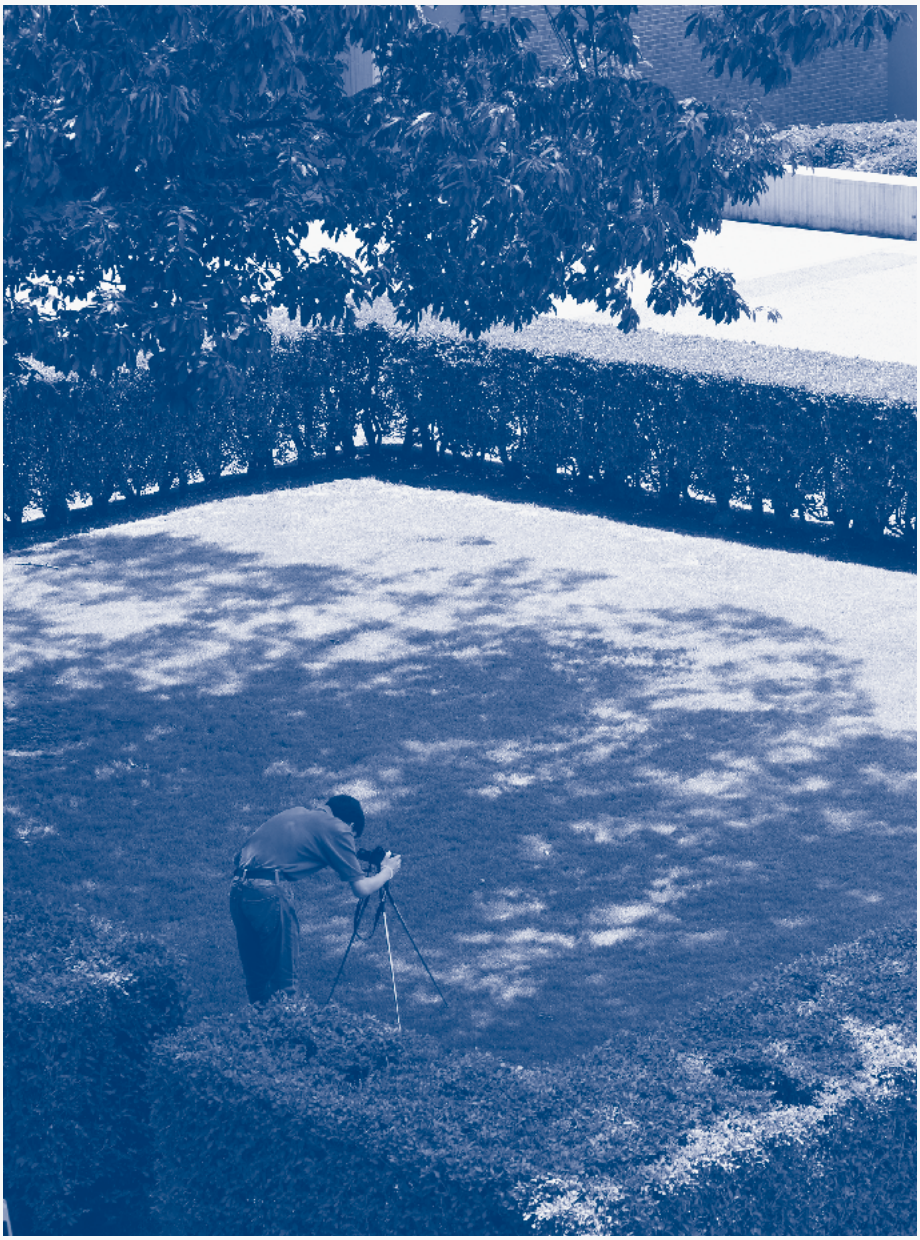
――最後に、どんな気持ちで臨んでほしいか、これから入学してくる方々へメッセージをお願いできますか？

吉川　絵画・日本画については、自分の「好き」を確かめたい人はのぞいてみてほしいです。とくに美術、自分が表現することっていうのは、決して人から強いられるものではない。教員には、その人が好きなことをどう手助けするか、寄り添うことしかできないんですね。単純なようだけれど、自分が主体なんだと、本当に好きなことを確かめに来てもらえたらいいんじゃないかと思います。

清水　デザインの経験がない、学んで何になるんだろうと不安な人も、興味があるならぜひ来てほしいと思いますね。スクーリングで他の学生の人と接する時間にも、そこにはいろんな考えの人がいた方がいい。学ぶ人が多様化することが、いまデザインに取り組む上でもいいことだと思います。「全然やったことないんです」みたいな、そんなの気にしないで、尻込みせずに飛び込んできてほしいです。

金子　芸術研究コースの内容は、いわゆる人文科学の基本的な方法論を、美術を題材にやりましょうというものです。文学部で学んだことがある人にとっては、それほど目新しさはないかもしれません。ですがこれから取り組む人にとっては、人文科学と芸術文化を一緒に学ぶ―つまり「人間に関わること」を研究する面白さを提供できるのかなと思います。





画家

高橋 希和さん

油絵学科 日本画コース
2012年度卒業



自分のペースで学べることが通信教育課程のメリット
そう気づいて学習を楽しめるようになりました

ムサビ通信の日本画コースを卒業したのち、画家として自分の表現に取り組み続けている高橋希和さん。本格的に日本画を学び始めたのは、ムサビ通信に入学されてからなのだそうです。武蔵野美術大学内のギャラリー「gFAL」で開催された高橋さんの個展を訪れ、入学を決めた理由から在学中のこと、現在につながる学びについてお話をうかがいました。

――まず、高橋さんの現在の活動について教えてください。

高橋　今は創画会の活動を中心にしています。その他に画廊やギャラリーですとか、ご縁があった方からの展示依頼をいただいて作品制作をすることもあります。

――作品を拝見して、花の中に包み込まれていくような、とても大きなスケールで描かれているのに驚きました。

高橋　こういうスタイルで描くようになったのは、ムサビ通信の卒業制作が最初です。卒業制作では、まさに今回の個展と同じ100号の作品を2枚制作しました。そこからは、今のところずっと花を描いています。

――花というモチーフに惹かれる理由は、何かあるのでしょうか。

高橋　もともと元気が出ないときや落ち込んでしまったときに、花からエネルギーをもらっているような感覚があります。疲れていると花を見たくなって、見ると「わっ」と感動が湧き上がって「描きたい」という気持ちになる。その感動を通して制作に向かっている感じですね。

――スケール感もそうですが、絵を描かれる上で大事にされているのはどのようなことですか？

高橋　その花が持っている個性というか、放つ香りだったり、光だったり、そういったものを大事にしたいなと思っています。自分が小さな虫になったような感覚で、その花から感じたエネルギーや生命力を表現したいです。



日本画を基礎から学びたい

――高橋さんはムサビ通信に入学される前に、4年制の一般大学で国際文化学部を卒業されています。美術を学ぼうと思われたきっかけは？

高橋　以前の大学では中国語や国際文化を学んでいました。卒業後に貿易実務の仕事についたんですけれども、実を申しますと過労で入院いたしまして、それで病室で絵を描くようになったのが美術を目指すようになったきっかけです。

――療養の中で道が開けていったのですね。絵を学ぶ環境はいろいろあると思うのですが、ムサビ通信を選ばれたのはなぜでしょうか。

高橋　昔から絵を描くことはすごく好きで、美術も大好きだったんですけれど、今までの人生で本格的に学ぶという経験がなかったので、とにかくゼロから学べる環境を探していたんです。

　そうした中でムサビ通信を見つけまして、働きながら学べる環境であること、あと資格を取れるということや学費も決め手になって、ここだなと思いました。最終的には入学説明会に参加してお話をうかがったことで、どのように学んでいくのか少しイメージできたので、ここでなら勉強できるという直感で決めました。

――しっかりと体系立てて学びたいという気持ちがあったんですね。

高橋　そうですね。何から始めていいか分からなかったので、基礎的な部分から身につけたいし、やっぱり美大で学びたいと思っていました。

――日本画コースを選ばれたのは？

高橋　日本画の画材に魅せられてしまって、「この絵の具を使いたい」というのが一番でしたね。

――鉱物を使った岩絵具など、日本画ならではの伝統的な画材には魅力がありますよね。

高橋　はい。画材屋さんに行っただけで気分が上がってしまいます。あとは中国に留学していた時期があるのですが、そのときに、あまりにも日本のことを知らない自分がいて、日本の文化を身につけたい、発信したいといった思いもありました。

自分のペースで興味を広げる

――通信教育課程は自律的に課題に取り組まなければいけませんし、働きながらだとさらに大変になってくると思います。日頃どのように学習を進めていかれましたか？

高橋　おっしゃる通り、はじめのうちは働きながら課題をこなすだけでもすごく大変で、スクーリングが始まってくるとさらにハードになって、正直卒業できる気がしませんでした。ですが、自分のペースで学べることが通信教育課程のメリットだと気づいてからは、自分のスケジュールに合わせて課題に取り組むようになって、すごく気持ちがラクになりました。授業も楽しめるようになって、いろいろと好奇心が湧いてきてデザインの科目も受講してみたり、資格課程に挑戦したり……。

――資格は何を目指されたんですか？

高橋　教職と学芸員です。

――両方ですか！？ かなり大変だったのでは。

高橋　履修はしたのですが、実際に資格を取ったのは学芸員だけです。当時はフルタイムで働いていたので、どう

しても教育実習に行けなくて、教職の資格は諦めました。またいつか機会があるかなと。

――意欲的に取り組まれていたんですね。お話を聞いていると、卒業の単位には困らなかったのではないかと思うのですが。

高橋　いえ、それが結構ギリギリで、8年かかって卒業しました。もちろん、最初は早く卒業するのを目指していたんですよ。ただ途中から焦るのをやめて、そこからは自分の興味のままに、せっかく学べるのだから、学べるだけ学ぼうという気持ちでした。

――なるほど。興味やライフスタイルに合わせて、時間をかけて取り組めるのは通信教育課程のいいところかもしれません。8年かけてでも、最後までやり通して卒業されたのはすばらしいことだと思います。

高橋　諦めが悪かったんです。

――在学中、印象に残っている科目や課題はありますか？

高橋　やっぱり、強く印象に残っているのはスクーリングですね。最初は基礎的な知識や、絵の具の扱い方から丁寧に教えていただけます。ただ、受身の学びを続けるだけではなくて、その先は先生方に背中を押されながら、自分で試行錯誤していくような感覚が強くありました。

　そのおかげで自分の絵を描くことの難しさや楽しさを学べたなと思っていますし、今制作に向かう中でも当時の体験が息づいています。こうしてみよう、ああやってみようとか、試してみたい表現が浮かんでくるようになったのは、ムサビ通信のスクーリングがあってのことかなと思います。

――描きたいものをただ描くだけでなく、いろいろな表現を一通り体験してみるというのも、大学だからこそできたことかもしれませんね。

画家への道を開いた卒業制作

――高橋さんは、卒業年度に創画展に入選されています。出品されたのは卒業制作で描かれた作品でしょうか。

高橋　はい、卒業制作の作品です。このとき初めて「自分の絵が描けた」という喜びがあったので、その記念にと出品いたしました。

――そこから画家への道が開けたんですね。現在の作風にたどり着くきっかけも卒業制作だったというお話がありました。どのような絵を描かれたのですか？

高橋　本当に今の原点と言えるような作品で、菊の花を画面いっぱいに描きました。100号に入りきらないような大きさで。

　当時、卒業制作で大きな画面を前にして、自分が表現したいものが何なのかをすごく考えました。そのときに見つけたテーマというか、描いてみたいと思ったのが菊の花だったんです。

――大きな作品に向き合うことで、自分にとって大事なテーマが見えてきたんですね。ちなみにご自宅で描かれていると聞いたのですが……。

高橋　卒業制作も現在の作品も、自宅の六畳間で制作しています。

――そうなんですね！　勝手に広いアトリエで制作されているのをイメージしていました。

高橋　そうだったらいいんですけど（笑）。しかも日本画は水をたくさん使うので、油絵のように立てかけて描くことができないんです。平置きの状態だと余計にスペースが狭くなってしまって、作品と壁の隙間を通って、画面の周りを回りながら描いています。

――平置きで描くというのも、日本画を描いたことがない人には意外な点かもしれません。日本画ならではの表現というのは何か意識されていますか？

高橋　手法としては、先ほども言ったようにものすごく水を使うんですね。





在学中にいただいた多くのアドバイスは今も制作に向かうときに意識している大切なものです



その中で絵の具がふわっと広がってくるような感覚をすごく大事にしています。観る人と同じように、自分が花に包まれる気持ちになるように全身で描くというか、手先でというよりは身体で表現している感じがあります。

また、制作工程のなかでも特に「隈取り」と呼ばれる工程を大事にしていて、全体的に墨の濃淡を使って花の質感を表現しています。最終的に墨の色として残ることはありませんが、この墨の表現によって絵の具の発色も変わってくるので、絵の具をのせるとどうなるのかを想像しながら、花の質感を確かめるように墨と向き合っています。

――繊細さとダイナミックさ、どちらも大事なんですね。ほか在学中に課題や卒業制作に取り組む過程で、先生方にもらったアドバイスなど記憶に残っていることがあれば教えていただきたいです。

高橋　いろいろありますよ。例えば「“描く”と“塗る”は違う。仕事量があっても“ただ塗った”で終わってしまうこともある」とか、「和紙の質感がわかるくらい絵具を薄くのせるだけの美しさもある。足すだけでなく、引く仕事も大事」。「実際の作品サイズより大きく見えるような作品はいいよね。画面の外まで絵の広がりを想像できるような」と言っていただいたこともありました。

日本画コースの教授（当時）である重政啓治先生をはじめ先生方からいただいたアドバイスは、どれも今制作に向かうときに意識している大切な言葉です。

好奇心を持って諦めずに取り組む

――高橋さんは働きながらムサビ通信で学んで卒業し、今こうして画家として活動されている……それも一度大学を卒業して社会に出てからの挑戦です。とても勇気がいることだと思います。

高橋　そうやって挑戦してみようと思えたのは、ムサビ通信でいろいろなバックグラウンドを持つ人たちとの出会いがあったこともすごく大きかったと思います。

――ムサビ通信にはさまざまな年齢の学生がいて、学ぶ目的もそれぞれですよね。仕事に役立てるだけではなく、自分の表現を模索したり、生涯の楽しみのために学ぶという人も多いです。

高橋　本当にそうですね。

――高橋さんのように根気強く意思を貫いて、自分の道を切り開かれている人がいるというのは、これから学ぶ皆さんにも励みになるのではないかと思います。最後に、ムサビ通信へ入学される方に向けてのアドバイスなど、高橋さんの経験からお伝えいただけることはありますか？

高橋　そうですね。これは今の私のモットーでもあるんですけど、在学中から焦らずに自分のペースでこつこつ取り組むスタイルを大切にしています。なので、どんなに時間がかかっても失敗しても、それはそれとして気にせず、自分のやりたいことを諦めないことが大事なのかなと思っていますね。

自分自身も「やってみたい」という好奇心を大切にして、これからも活動していけたらなと思っています。

高橋希和（たかはし・きわ）
1982年生まれ。埼玉県出身。2004年、法政大学国際文化学部国際文化学科卒業。2013年、武蔵野美術大学通信教育課程油絵学科日本画コース卒業。2017年、第44回創画展 創画会賞受賞。2018年、第3回 Will+s展 Will+s展賞受賞。現在、創画会准会員。

学生生活／学生支援体制

学習サポート

学習会活動

学習会は、学生の自発的な呼びかけによって設立、運営される学習と交流の場です。自主的な学習の場を設けたり、課題勉強会や見学会を催すなど活発な活動が展開されています。大学が認定した学習会には、活動費の援助や月刊誌『武蔵美通信』での活動内容の発信などの支援があります。

美術館などの割引特典

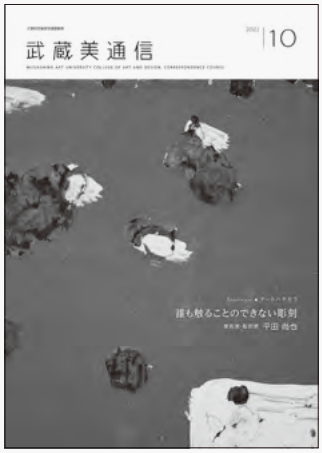
東京は世界でもまれな美術館･博物館集積都市。ムサビ通信はさまざまな館と提携して、「キャンパスメンバーズ」制度に加入しています。キャンパスメンバーズは、学生証を提示することにより美術館・博物館の常設展への無料入館や、特別展の割引が利用できる制度です。東京国立博物館や東京国立近代美術館、国立西洋美術館、さらに東京都立のさまざまな美術館・博物館などに適用されます。

美術館･図書館の利用

鷹の台キャンパスには、約４万点の美術作品やデザイン資料をコレクションする美術館、美術・デザインに関する貴重書を所蔵する図書館があります。通信教育課程の学生は、通学生と同じようにこの美術館･図書館を利用することができます。また､市ヶ谷キャンパスの図書館も利用することができます。







月刊誌『武蔵美通信』

大学と学生を結ぶ補助教材となるコミュニケーション・ツールです。大学からの連絡事項だけでなく、教員のインタビュー、美術・デザイン界の話題なども掲載しています。ムサビ通信で学ぶ皆さんへ、毎月送付されます（8月を除く）。

学生生活支援

奨学金

ムサビ通信では、成績優秀な学生に対し、次の奨学金を贈与または貸与しています。詳しくは「学生募集要項」をご覧ください。

・武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　奨励奨学金
・武蔵野美術大学校友会奨学金
・日本学生支援機構奨学金

学割／通学定期券

スクーリングの受講、科目試験の受験、卒業制作講評の受講等のために JR線を利用する際、会場までの片道乗車区間が 101キロメートル以上ある場合は、学割（学校学生生徒旅客運賃割引証）を利用することができます。また、夏期スクーリングなどで長期間通学する場合は、電車・バス等の通学定期券を購入するための「通学証明書」が発行されます。

宿泊施設の紹介

大学近辺のアパート（夏期スクーリング時）、学生会館、ホテルなどを紹介します。

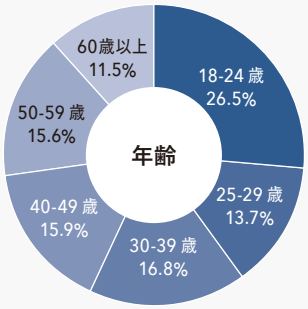
進路情報の利用

卒業後に就職を希望する学生は、登録を行うことで、企業・機関等のデータファイルの閲覧ができます。

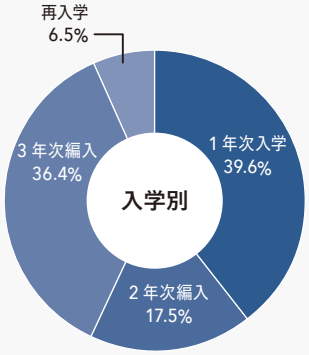


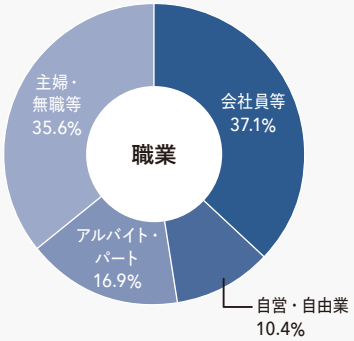
ムサビ通信・学生のデータ

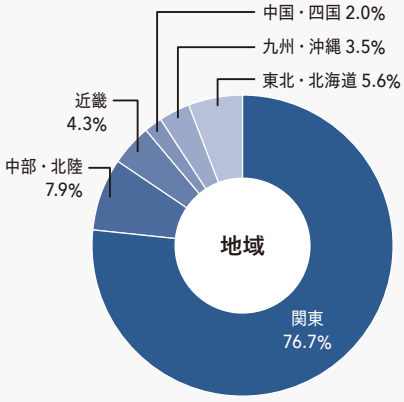
2023年 5月現在で 2,762名の学生が学んでいます。

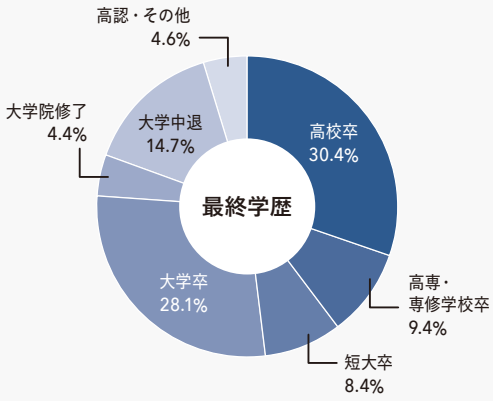


※最高86歳、75歳以上の方も17名









教　育　環　境

鷹の台キャンパス

鷹の台キャンパス

武蔵野の面影を色濃く残す小平の地にある、11万㎡以上の広大なキャンパスです。スクーリングは、ここを中心に、アトリエや工房の充実した施設を使って行われます。美術館・図書館、民俗資料室、イメージライブラリーなど、美術・デザインの総合大学ならではの充実したライブラリー環境と、創造的空間が形成されています。





鷹の台キャンパス

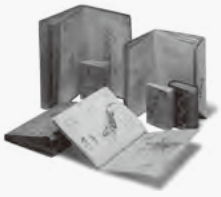
美　術　館・図　書　館

美術館、図書館、博物館の機能を併せ持つ、ユニークな知の複合施設。美術資料の収蔵品は、「絵画・版画・彫刻」、「グラフィックデザイン」、約400脚の近代椅子を軸とする「プロダクトデザイン」から工芸品、民芸品など多岐にわたり、重要な研究資料として高い評価を受けています。図書資料は美術・デザイン分野の専門書を中心に、30万冊以上の図書と5,000タイトルの雑誌を所蔵しています。また、国内外の展覧会カタログや絵本など、造形全般を研究するうえで、きわめて魅力的なコレクションを形成しています。市ヶ谷キャンパスの図書館も利用することができます。









（上右）アームチェア「レッド アンド ブルー」ヘリット・トーマス・リートフェルト、1918年（上左）日本画「渡殿」塩出英雄、1961年（下）レオナルド・ダ・ヴィンチによる手稿（ジュンティバルバラ社によるファクシミリ版）、原本は1500年頃

民　俗　資　料　室

人々が暮らしの中で生み出し、使い続けてきた道具（民具）約9万点を収蔵しています。一般公開している収蔵庫や、民具の造形と発想に着目した企画展、体験イベントなどを通じて、時代とともに失われつつある民具に触れることができます。



民俗資料室ギャラリー展示30「民具のデザイン図鑑」（2022年）会場風景
撮影：鈴木静華

イメージライブラリー

国内外の映画やドキュメンタリー、アニメーションから実験映像まで、2万点を超える映像作品を所蔵し、個人ブースとグループ視聴室で視聴することができます。



三鷹ルーム・市ヶ谷キャンパス

三鷹ルーム

JR中央線「三鷹」駅北口より徒歩4分の好立地にあり、主にスクーリングに利用されます。また、大学や各学科主催による展示発表、公開講座、インフォメーションなど、ムサビと社会を結ぶ窓口として機能しています。



三鷹ルーム
（武蔵野 YS ビル 6F）

市ヶ谷キャンパス

JR中央・総武線「市ケ谷」駅より徒歩3分とアクセスに恵まれた都心キャンパスで、一部科目のスクーリングに利用されます。企業との共創スペースやオープンスペースの整備など、地域・社会に広く開かれた教育研究拠点として機能しています。市ヶ谷キャンパス図書館の利用も可能です。



市ヶ谷キャンパス

学外厚生・研修施設

奈良寮

古美術研究やスケッチ旅行などのために広く開放されている厚生施設の一つ。建物は国宝・重要文化財の修復に功績を残した故新納忠之介氏の旧宅で、正倉院の近くに位置し、古美術研究旅行に最適です。



五箇山「無名舎」

富山県にある厚生施設。越中五箇山の典型的な合掌造りの民家を、研究・保養施設として改修した建物です。伝統的な民家建築と、五箇山地方に古くから伝わる民俗・民芸の数々も楽しめます。



パリ国際芸術都市アトリエ

セーヌ川沿いに位置する「国際芸術都市」に本学が使用権をもつ2つのアトリエがあり、ムサビ卒業生に応募資格がある「パリ賞」受賞者が入居することができます。



教　員　紹　介

造形学部通信教育課程　課程長



吉川民仁　よしかわたみひと

教授（絵画表現コース）

1965年生まれ

武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コース修士課程修了

文化庁芸術家国内研修員、'90年より鎌倉画廊を中心に個展、'08年より東京日本橋高島屋美術画廊 Xにて個展。グループ展では VOCA展、安田火災財団選抜奨励展、Chiba Art Now '01 絵画の領域展 (佐倉市立美術館)、「抽象と形態 :何処までも顕れないもの」展 (DIC川村 記念美術館)、'18 TamihitoYoshikawa展 Galerie Taménaga France（パリ）、その他アートフェアなど。

message

本来、作品の制作はとても自由なものです。ただ、自身の表現を自在に画面へ形づくることは簡単ではありません。だからこそ通信での学習を通じて自身の興味を探し、自分のやりたいことを見つけてください。その過程では行き詰まることや躓くこともあるでしょう。でも、そのことが各自の成長を促し、自己を確立してゆきます。

造形学部通信教育課程　専任教員



元田久治　もとだひさはる

教授（絵画表現コース）

1973年生まれ

九州産業大学芸術学部美術学科卒業

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画（版画）専攻修了

文化庁新進芸術家海外研修制度研修員（オーストラリア、アメリカ）。版画展（日本版画協会）、2013年よりアートフロントギャラリーにて個展、主なグループ展では VOCA 展、Domani・明日展、プリントって何？—境界を超えて—（市原湖畔美術館）、Hiroshige's City：From Edo to Tokyo（ホノルル美術館）、終わりの向こうへ：廃墟の美術史（松濤美術館）、鉄道と美術の 150 年（東京ステーションギャラリー）など。

message

モノを創作する上で「技法」と「表現」は切っても切れない関係があります。アナログやデジタルを問わず、表現したい事とその表現手段としてのメディアを有効活用し、まず何を表現したいのか、また、その上で必要な技法は何か、取捨選択した中で各々の作品が魅力なものになるようサポートできれば幸いです。



室井佳世　むろいかよ

教授（日本画表現コース）

1962年生まれ

東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程修了

文化庁芸術家国内研修員（秋野不矩氏に師事）。文化庁現代選抜展。New Voice コンテンポラリージャパニーズペインティング展（USA North Dakota Museum、Bemidji State University、Moorhead State University、Winona State University）。星粒展。Glamorous展。都美セレクショングループ展「dot. 女性日本画展」。日本画制作の現場（広島市立大学）。上野の森美術館大賞展（フジテレビ賞）。創画展（創画会賞・奨励賞・春季展賞）。

message

才能アリかナシかの決め手はと問われたならば、「やらずにおられないことを持っているか否か」と答えたいです。様々な志を胸にこの学びの場を選ばれた皆様は既に「才能アリ」なのです。学びは永遠の財産です。軽やかに助走を始めましょう。我々はその跳躍を促すロイター板です。共に日本画の素材に親しみ学んでまいりましょう。

2024年4月着任予定の教員については、2024年4月1日以降に、通信教育課程 Webサイト［教員紹介］でお知らせします。

造形学部通信教育課程　専任教員



上原幸子　うえはらさちこ

教授（デザイン総合コース）

1959年生まれ

武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業

広告制作会社にて、アドバタイジングデザイン、キャラクターデザイン等の制作に携わる。在学中に障害者の社会参画活動に携わったことでコミュニケーションデザインの存在に気づき、多摩川に市民主催の遊び場を立ち上げ、子ども・子育て支援と環境教育、子どもの居場所づくりなどコミュニティデザインに取り組んでいる。主な仕事に、警視庁マスコットキャラクター「ピーポくん」、鳥取県マスコットキャラクター「トリピー」、環境学習のメディア制作、ワークショップの企画運営などがある。著書：『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術出版局・2018年）。

message

デザインは、身の廻りのあらゆる場面で必要なものです。困っていることを解決する方法を考えたり、ものごとを見やすくわかりやすくしたり、人を楽しくワクワクさせるアイディアなど、デザインの活躍の場はこれからも広がっていきます。ムサビで学び合いながら見る目と聞く耳を鍛え、デザインする楽しさを実践的に学んでいきましょう。



清水恒平　しみずこうへい

教授（デザイン総合コース）／副課程長

1976年生まれ

武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業

2004年に個人事務所「オフィスナイス」設立。グラフィックデザインや編集、インタラクションデザインなどを中心に活動。2012年から本学専任講師。2014年から同准教授。主な仕事：小学生向けプログラミングプログラム「ロボット動物園」の教材デバイスや教育プログラムの制作、「認知症未来共創ハブ」「人口減少 xデザイン」「MUJI HOTEL」「無印良品の家 みんなで考える住まいのかたち」「欲しかった暮らしラボ」「誕生日寄付」「インドシナ料理 アンドシノワーズ」などのウェブデザインなど。著書：「マルチメディアを考える」（武蔵野美術大学出版局・2016年）ほか。

message

技術革新や人々の働き方、暮らし方の変化によって、社会がデザインに求めるものは、どんどん変わりつつあります。デザインの役割は決して表層的なものだけではありません。まずは、既成概念にとらわれず、そのデザインの広がりを体感してください。そして、あなた自身のデザインの領域を切り拓いてください。



荻原剛　おぎはらつよし

准教授（デザイン総合コース）

1975年生まれ

武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業

ケルン工科大学デザイン科卒業

2004年にケルン工科大学デザイン科卒業。独デザインファーム勤務を経て帰国後にオムロンヘルスケア入社、2017年より同デザイン部門デザインディレクター、2021年より部門長を兼任。直近の業績として、オムロン血圧計 HEM-7600T（iF賞、グッドデザイン賞、全国発明表彰、German design award）、オムロン HEM-7530T Complete（iF賞、グッドデザイン賞、German Design Award）。iF賞金賞、reddot best of the best賞、Designpreis der Bundesrepublik Deutschland等を受賞。研究テーマは専門的な領域を持たない「デザイン」の実践と、思考ツールとしてのパターンの探求。

message

デザインは取り扱う対象となる領域が拡大しつづける学問です。時代の変化に応じてその役割も柔軟に変わり続ける。でも根幹にある大切なところは案外とずっと変わらないのだとも思います。ムサビでの時間を通じて自身の芯となる発見にいくつ出会うことができるのか、それを一緒に楽しめたら嬉しく思います。



金子伸二　かねこしんじ

教授（芸術研究コース）

1964年生まれ

武蔵野美術短期大学専攻科生活デザイン専攻修了

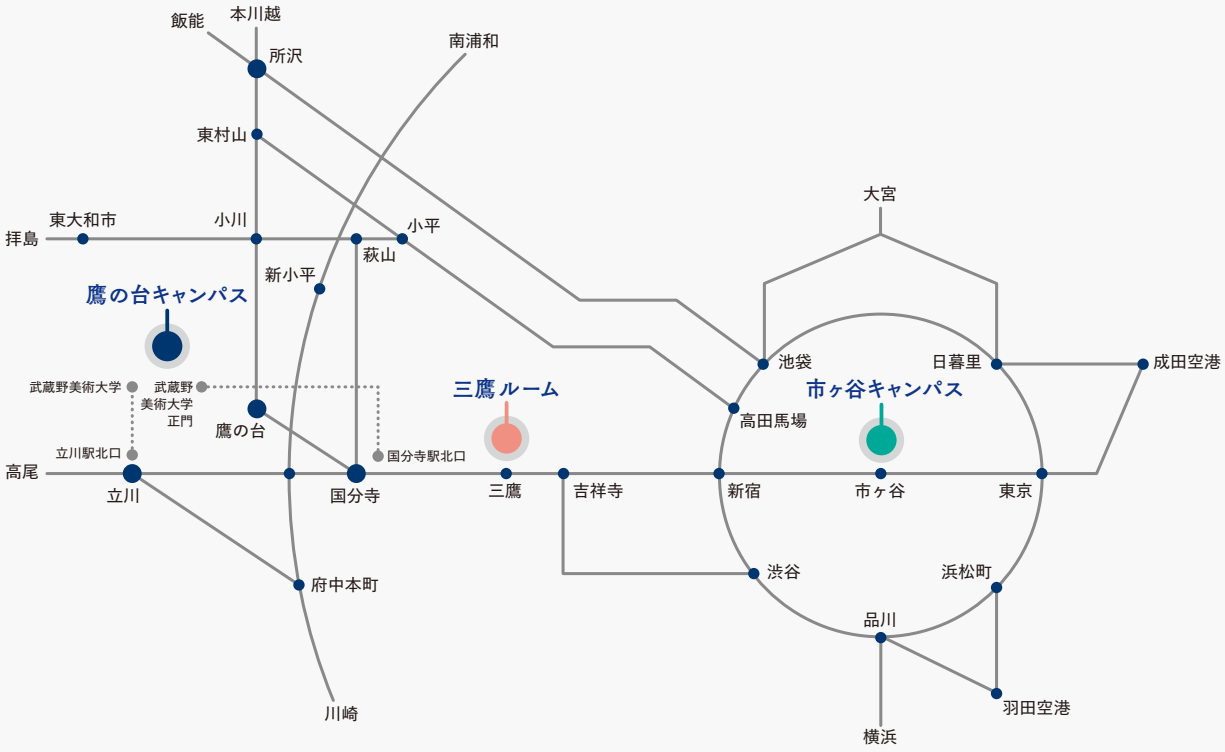
上智大学大学院哲学研究科哲学専攻博士前期課程修了

1995年より本学非常勤講師、2002年より助教授、2012年より教授。専攻：生活デザイン、近代日本における造形認識の形成に関する研究。著書：（単著）『造形学概論』（2004年、武蔵野美術大学出版局）、（共著）『教養としての編集』（2009年、同前）、『ミュゼオロジーへの招待』（2015年、同前）、『ミュゼオロジーの展開』（2016年、同前）、『アートマネージメントを学ぶ』（2018年、同前）。論文：「出版物に見る帝国美術学校創立期のイメージ」『武蔵野美術大学研究紀要 no.49』（2019年）、「金原省吾における「構想」の概念」同前『no.50』（2020年）。

message

自分に自信を持つことは、とても大切です。それと同時に、自己評価ほど当てにならないものもありません。一つの専攻分野を多くの、そして様々な人が学ぶ大学では、そこでの評価を通して、自分の特徴や傾向、不得手や長所が見えてきます。美術を学ぶだけでなく、自分をよりよく知ることにもつながる、それがムサビ通信です。

交　通　案　内



鷹の台キャンパス ｜ 〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

» JR中央線［国分寺］駅乗換、西武国分寺線［東村山］行で［鷹の台］駅下車、徒歩18分

» JR中央線［国分寺］駅北口下車、西武バス
「国分寺北口」4番停留所より「武蔵野美術大学」行
または［小平営業所］行で［武蔵野美術大学正門］または［武蔵野美術大学］下車（バス所要時間約25分）
（東京駅より国分寺駅まではJR中央線特別快速で約35分、快速で約43分）

» 西武新宿線［東村山］駅乗換、西武国分寺線［国分寺］行で［鷹の台］駅下車、徒歩18分

» JR中央線［立川］駅北口下車、立川バス［武蔵野美術大学］行で終点下車（バス所要時間約25分）

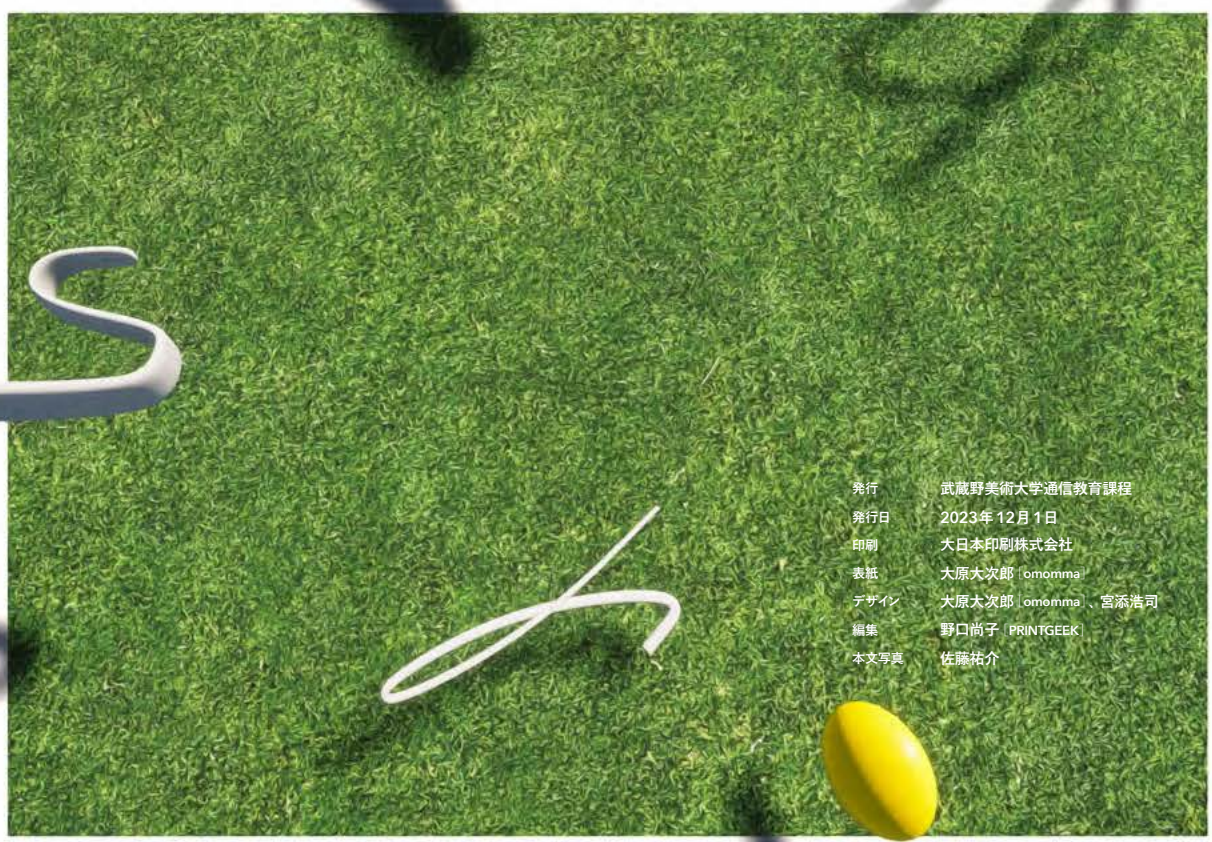
三　鷹　ル　ー　ム ｜ 〒163-0609 東京都武蔵野市中町 1-19-3武蔵野 YSビル 6F

» JR中央線［三鷹］駅北口より徒歩約 4分

市ヶ谷キャンパス ｜ 〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 1-4

» JR中央・総武線［市ケ谷］駅より徒歩 3分
» 東京メトロ有楽町線・南北線［市ケ谷］駅、都営新宿線［市ヶ谷］駅 4番出口より徒歩 3分

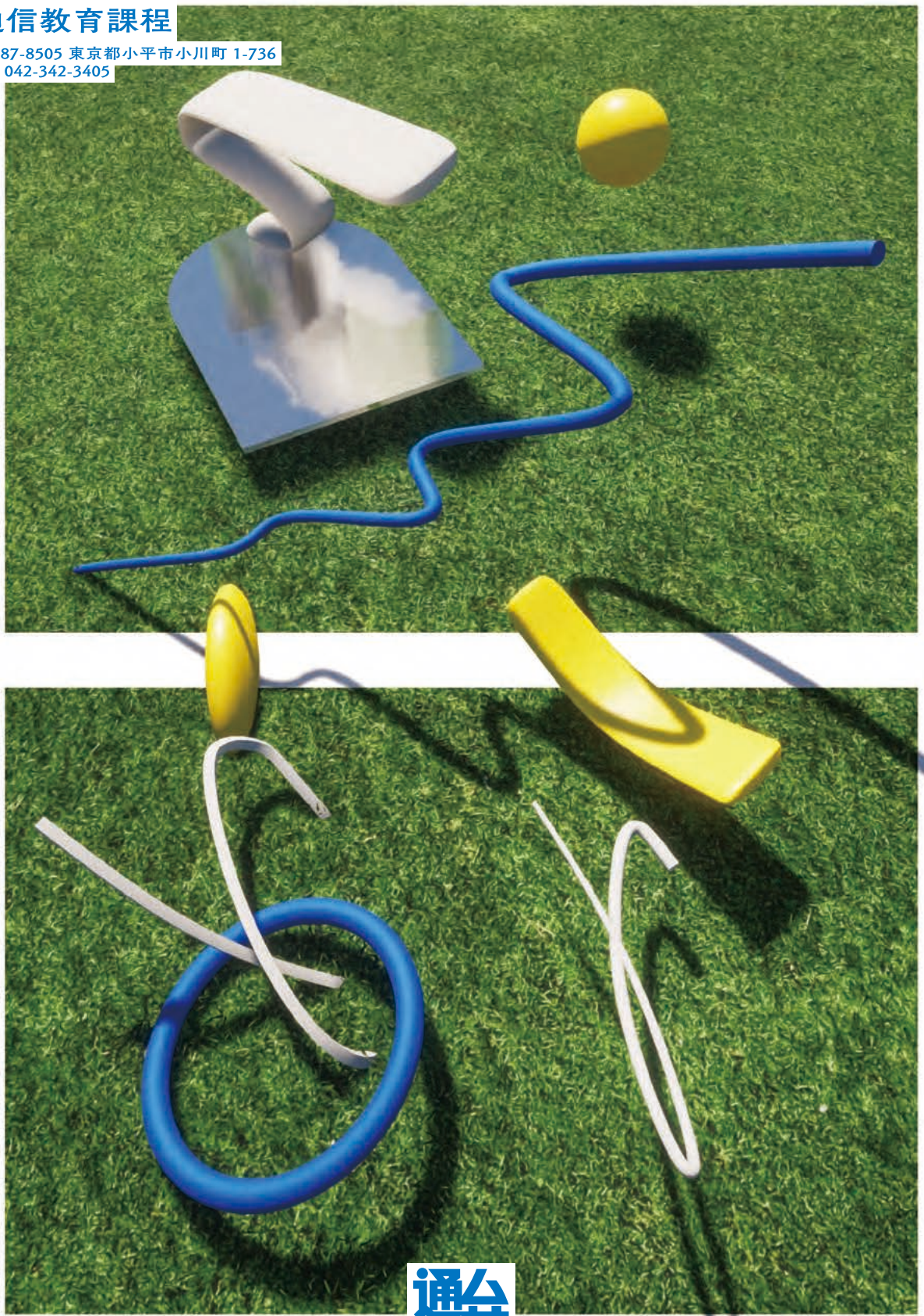




発行	武蔵野美術大学通信教育課程
発行日	2023年12月1日
印刷	大日本印刷株式会社
表紙	大原大次郎「omomma」
デザイン	大原大次郎「omomma」、宮添浩司
編集	野口尚子「PRINTGEEK」
本文写真	佐藤祐介

武蔵野美術大学
通信教育課程
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
tel. 042-342-3405

Musashino Art University



通信サピ

E-mail: cc-nyugaku@musabi.ac.jp
https://cc.musabi.ac.jp/